

IV. 国内連携

IV-1. MOST

1. はじめに

MOST (Mutual Online System for Teaching & Learning) は、本センターが2009年11月に提供を開始したオンラインFD支援システムで、大学の教職員、大学院生を対象とした招待制のサイトである(図1)。2015年1月5日現在、登録者数639名(+58)、スナップショット数2,762件(+670)、コミュニティ数90件(+3)となっている(括弧内は2014年1月1日以降の増加数)。本節では、MOSTの取り組みやシステム改良の内容を中心に報告をおこなう。



図1 MOST トップページ (<https://most-keep.jp>)

2. MOST における取り組み

MOST のトップページからリンクされた「MOST ギャラクシー」上の実践事例を充実させるために、関西地区 FD 連絡協議会の「FD 活動報告会」において作成された個別大学で取り組まれている組織的な FD 活動に関するスナップショットや、MOST フェローの活動成果などを中心に MOST 上に掲載してきた。今年度も引き続き公開コンテンツの充実を図った。

2-1. MOST フェローシッププログラム

本センターでは、これまで提供してきた MOST の活動をさらに推進・活性化させるため、全国の大学教員を対象とし、MOST を利用した授業実践の見直しや教育改善の活動に取り組む「MOST フェローシッププログラム」を 2011 年度に開始した。今年度は第 3 期 MOST フェローを募集し 10 名が選定された。第 3 期 MOST フェローと各テーマを資料 1 に示す。

MOST フェローは、1 年間かけて、対面でのミーティングや MOST を利用することで、フェロー同志で活動のプロセスや成果を共有しながら、各自の教育実践をよりよくするとともに、教員コミュニティとしての成長も目指している。第 3 期 MOST フェローの活動スケジュールを資料 2 に示す。このプログラムは、MOST フェロー運営委員会として、飯吉教授、田口准教授、酒井准教授が中心となりプログラムの運営を担当した。以下、本プログラムにおける、2 度の対面ミーティングを中心に報告する。

(a) 第 1 回ミーティング

2014 年 3 月 19 日、第 3 期 MOST フェローシッププログラムの第 1 回目ミーティングが京都大学で開催された。プログラムを資料 3 に示す。第 1 回ミーティングでは、フェローの自己紹介や 1 枚の画像を提示しながらの実践紹介をおこない、活動の第一歩を踏み出した。

ミーティングの冒頭で、まず、飯吉教授・田口准教授から本プログラムの趣旨説明がおこなわれた。ここでは、個人の授業改善だけでなくディシプリンを越えた教員コミュニティとしてもその質的向上を目指すというプログラムのねらいや、MOST を利用して実践を可視化・共有化することの意義などについて説明がなされた。

次に、酒井准教授より、この取り組みで各フェローが作成する MOST とコースポートフォリオ（スナップショット）の紹介、年間スケジュールの説明がおこなわれた。本プログラムでは、1 年間で各自のスナップショットを作成するとともに、翌年の第 21 回大学教育研究フォーラムで成果発表することが最終目標であることが示された。

オフィシャルなミーティングの終了後、別室に移動し、第 2 期 MOST フェローの修了式がおこなわれた。本プログラムを終了した 10 名の第 2 期 MOST フェローに修了証が授与された。第 2 期 MOST フェローは、この日までにそれぞれ 1 年間取り組んできた授業開発・改善の成果をスナップショットとして作成し、MOST 上で公開するとともに、第 20 回大学教育研究フォーラムでもその成果を発表した。スナップショットは下記の URL で閲覧可能である。

https://most-keep.jp/most/gallery-most_fellow_02/

引き続き、第 1 期・第 2 期 MOST フェローも合流し、第 3 期 MOST フェローの教育上の取り組みについてのアピールタイムが設けられた。事前に提出された自己紹介シートと取り組み内容をアピールするような 1 枚の写真、図、イラスト（自己 PR 用画像）をスクリーンに投

影し、各自の教育に関するアピール点が各2分程度で発表された。この間、自身が担当する授業を紹介するとともに、選定したテーマや改善したい内容、そのきっかけや現状と課題などについて共有された。本ミーティングは非常に盛況で、終了時刻が過ぎるまで活発な議論や意見交換がおこなわれた。

なお、本ミーティング後、2週間の期間を設け、ミーティングや公開研究会の感想を掲示板へ投稿することを各フェローに求めた。また、「プロポーザル」スナップショットのテンプレートを送信し、「(1) テーマ」「(2) 対象となる実践、時期」「(3) エビデンス、データの収集方法、協力者、ピアレビューの計画」「(4) 目標」などを1枚のスナップショットにまとめ、後日、オンラインコミュニティ上においてフェロー間で共有した。

(b) 第2回ミーティング（合宿）

2014年8月20日（水）～21日（木）、京都大学吉田泉殿及びThe 7th Berryにおいて、第2回ミーティングを合宿形式にて開催した（資料4）。この合宿では、前期に取り組んだ各自の授業実践について、作成途上のコースポートフォリオ等を使って活動報告がおこなわれた。初日は、各自の活動経過報告の後、ディナーセッションとして、歴代MOSTフェロー（村井淳志先生（金沢大学）、勝又あずさ先生（成城大学）、村上裕美先生（関西外国語大学短期大学部）、神谷健一先生（大阪工業大学））及び、飯吉教授によるトークがおこなわれ、講演内容について全体で議論をおこなった。2日目はMOSTフェローシッププログラム後半の活動の確認や、プログラムの今後の展開について、グループディスカッションをおこない、最後に議論内容を全体で共有した。

また、第21回大学教育研究フォーラムで予定されている、MOSTフェローの企画によるプログラムの編成会議もミーティング期間中におこなわれた。

第2回合宿以降の活動は、本原稿執筆時点では未実施であるが、今後予定されているMOSTフェローの活動と今後の予定について述べる。

2015年1月には、作成途上のコースポートフォリオの質を上げるため、スナップショット作成の進捗状況や問題点の報告、共有の機会をオンラインでおこなう。このフェロー間での相互チェックを通じてスナップショットを完成させ、3月の大学教育研究フォーラムまでにMOST上でスナップショットの一般公開をおこなう。これが本プログラムの一つめの成果である。また、3月に京都大学で開催される第21回大学教育研究フォーラムにおいて、各フェローはそれぞれ1年間かけて取り組んできた活動成果に関して個人研究発表をおこなう。これが二つめの成果となり、第3期MOSTフェローの活動は終了することとなる。

MOSTフェローシッププログラムは、次年度以降も継続すべく準備を進めている。3月の第21回大学教育研究フォーラムの期間中に、第4期MOSTフェローの第1回ミーティングを予定している。

2-2. コースポートフォリオ実践プログラムの実践事例の提供

2010年度後期に開発した「コースポートフォリオ実践プログラム」を、カリキュラム改善を目的としたプログラムとして発展させ、2013年度前期より、同じ学科に属するすべての教員が参加する実践プログラムを実施している。この取り組みは、2011～13年度科学研究費補助金基盤研究（B）「コースポートフォリオを活用した大学カリキュラムの質保証モデルの構築」（研究代表者：田口真奈）に引き継がれている。

2013 年度より、某大学における学科全体の取り組みとして、カリキュラム改善を視野に入れた本プログラムの実践がおこなわれている。当該学科の全教員、全科目を対象としてコースポートフォリオを作成し、カリキュラム改善のための基礎資料とすることがねらいである。今年度、カリキュラム改訂のため、作成したコースポートフォリオを実際に利用する予定である。ここで作成されたカスタマイズ版のスナップショットのテンプレートや、カリキュラム改善に関わる知見を将来的に MOST 上で公開する。

2-3. 関西地区 FD 連絡協議会の「FD 活動報告会 2014」

上記のほか、関西地区 FD 連絡協議会の「FD 活動報告会 2014」向けに作成されたスナップショット 25 件を、個別大学で行われている組織的な FD 活動の事例として掲載した (III-2 参照)。

3. システムの開発と改修について

利用者の要望などを受け、今年度中に MOST および KEEP Toolkit に対しておこなった改修項目及び、新規開発の「大学教育コモンズ」について以下に列挙する。原稿作成時点で多くの項目が未完成であるが、今年度内に完成予定である。また、随時、セキュリティ対応のための措置をおこなった。

(a) 大学教育コモンズ関連

- ・ 大学教育コモンズ基本機能の開発・・・大学教育コモンズの基本機能である、「教育コンテンツ表示機能」「教育コンテンツ投稿・編集機能」「ユーザー投稿機能」「タギング機能」「横断検索機能」「データ管理機能」「視聴履歴表示機能」「関連記事表示機能」「検索語表示機能」を開発・実装。
- ・ Basic LTI 対応・・・開発した大学教育コモンズに対し、サイトの相互可用性を高めるために Basic LTI 規格へ対応。
- ・ メタデータ付与・検索機能・・・開発した大学教育コモンズ内の教育コンテンツの検索・レコメンデーションにおいて利用するため、「メタデータ付与・検索機能」を開発・実装。
- ・ アクセスランキング機能・・・開発した大学教育コモンズの利用者側の利便性を向上するため、教育コンテンツのアクセスランキング機能を追加で開発。

(b) KEEP Toolkit 関連

- ・ 開発した大学教育コモンズとの相互乗り入れを実現するため、「KEEP Toolkit」について、ポートフォリオ毎への URL 付与機能を改修。
- ・ Sakai 10.2 対応・・・Sakai のバージョンアップに伴い、MOST 内で使用している KEEP Toolkit の改修を実施。
- ・ データ移行ツール作成・・・Sakai のバージョンアップに伴い、旧バージョンの環境で保存されているスナップショット等の諸データを新バージョンに移行させるためのデータコンバータを開発。

(c) MOST (Sakai) 関連

- ・ 開発した大学教育コモンズとコンテンツを共有するため、本センターが運用する MOST について、「アカウント連携機能」「投稿者プロフィール共有機能」を開発するとともに「MO ススメ」ツールを改修。
- ・ MOST ツール改修 (Sakai 10.2 対応) ……MOST の基盤システムであるオープンソースの Sakai を、現行の 2.5.4 から 10.2 にバージョンアップ。バージョンアップにあたり、MOST 用に開発または改修したプログラムの移行を行う。具体的には、「accesslog」「authz」「basiclti」「bbs」「blog」「db」「email」「master」「profile2」「site」「social-bookmark」「user」「velocity」「webservices」のプログラムが移行対象。

4. MOST 講習会

教育関係共同利用拠点における業務として「MOST 講習会」が企画されているが、昨年度までに講習会参加者数が少なかったこと、しかし、少数の需要もあることなどを鑑み、これまで実施してきた講習会で使用してきた教材を MOST 上で提供することとし、個別対応はオンライン上でおこなうこととした。MOST 上での教材は、下記の URL に掲載している。

https://most-keep.jp/most/program-web_lecture/

今後予定している 3 月の講習会は、関西地区 FD 連絡協議会の会員校に所属する教職員を対象としたもので、協議会広報ワーキンググループとの共催で開催する。これは次年度の「FD 活動報告会 2015」と連動している。

このほか、MOST のデモを、昨年度、第 20 回大学教育研究フォーラムの参加者に対して実施した。3 月に開催される第 21 回大学教育研究フォーラムにおいても実施予定である（執筆時点で未実施）。MOST の登録は招待制で、通常は事務局よりアカウントの発行をおこなっていないが、これらの講習会およびデモにおいては希望者に MOST のアカウントの発行手続きをおこなっている。

(酒井 博之、飯吉 透、田口 真奈)

第3期 MOST フェロー

氏名	所属・職名	テーマ
大久保 麻実	明海大学 総合教育センター 特任講師	オンライン学習・ブレンディッド学習
小河 一敏	宮崎県立看護大学 准教授	ピア・インストラクション、PBL（プロジェクト型学習・プロブレムベース学習）
亀田 真澄	山口東京理科大学 一般基礎 准教授	オンライン学習・ブレンディッド学習
梶本 歩美	国際教養大学 基盤教育 講師	PBL（プロジェクト型学習）
辰島 裕美	北陸学院大学短期大学部 講師	企業と連携したプレゼンテーションの PBL 型授業デザイン
田中 浩朗	東京電機大学 工学部 人間科学系列 教授	授業 SNS を用いたブレンディッド学習 の試み
成瀬 尚志	長崎外国語大学 外国語学部 特任講師	文章表現科目
米谷 淳	神戸大学 大学教育推進機構 教授	Web-based FD に関する調査・研究
水野 邦太郎	福岡県立大学 人間社会学部 准教授	オンライン学習・ブレンディッド学習
矢野 浩二郎	大阪工業大学 情報科学部 准教授	ピア・インストラクション、PBL（プロジェクト型学習・プロブレムベース学習）、オンライン学習・ブレンディッド学習

第3期 MOST フェロー 活動計画

日 程	活 動
3月18日(火)	第20回大学教育研究フォーラム 小講演への参加(京都大学)(任意)
3月19日(水)	第1回ミーティング(京都大学)
～3月末	第1回ミーティングの感想の共有 ※MOST内「第3期 MOST フェロー」コミュニティ内の「掲示板」へ投稿
4月1日(火)	「活動のプロポーザル」スナップショットの共有 ※「テンプレート」を各アカウントに送信します ※記載項目: ①テーマ、②対象となる実践、③動機、④目標、⑤エビデンスの収集・分析方法、⑥協力者、ピアレビューの計画など
6月頃	進捗状況や問題点の報告、共有(オンライン)
8月後半	第2回ミーティング(8月後半で1泊2日) ・1日目: 13:30～宿泊、2日目: 9:00～12:00(予定) ・活動の進捗共有、成果発表に向けての計画 ・講演 or 勉強会を予定
8月後半	第2回ミーティング後、スナップショットを MOST フェローで共有
1月頃	進捗状況や問題点の報告、共有(オンライン)
3月中旬	MOST のギャラリーでスナップショット一般公開 ……成果①
3月中旬	第21回大学教育研究フォーラム(京都大学) ……成果② ・代表者による成果報告(MOST フェローの活動全体) ・個人研究発表で各フェローの成果報告 ・修了式

※その他、2015年3月に「第4期フェローとの交流会」を設定予定

第3期 MOST フェロー 第1回ミーティング プログラム

日 時：2014年3月19日（水）16:10～18:00

場 所：京都大学 吉田南1号館 1 共 21 演習室・1 共 22 演習室（2F）

■プログラム

16：10 ミーティング開始	1 共 22 演習室にご参集下さい（15:45 開場）
プログラムの趣旨説明 MOST について 今後のスケジュールについて	
（部屋移動）	1 共 21 演習室へ移動
16：40 修了式	第2期 MOST フェローの修了式をおこないます
16：50 アピールタイム& ディスカッション歓談	第3期 MOST フェローより、1人2分（+質疑応答2分） 程度で、自己紹介シートと持参した画像等を用いて、取 り組みについてのアピールをおこないます
終了・解散	

会場地図：京都大学 吉田南1号館 1 共 21 演習室（吉田南構内）



第3期 MOST フェローシッププログラム 第2回ミーティング

日 時：8月20日（水） 13:30～22:30（受付 13:00～）

8月21日（木） 9:00 ～12:15

場 所：京都大学吉田泉殿・THE 7TH BERRY

プログラム(1日目)

日程	時間	プログラム	備考	会場
8 月 20 日 (水)	13:30 ～ 13:40	開会挨拶	挨拶・本合宿研究会の趣旨について 飯吉 透（京都大学） MOST フェロー合宿プログラムについて 酒井 博之（京都大学）	京都大学吉田泉殿
	13:40 ～ 15:20	セッション 1	MOST フェロー活動報告（前半） (1 人 20 分・・・発表 10 分＋質疑応答 10 分)	
			休憩(20 分)	
	15:40 ～ 17:20		MOST フェロー活動報告（後半）	
	17:20-17:30		セッション 1 のラップアップ	
	17:30-18:30	休憩・移動（18 時出発）		
	18:30 ～ 22:30	セッション 2	ディナーセッション トーク 1（ゲスト：歴代 MOST フェロー） トーク 2（飯吉 透）	THE 7TH BERRY (木屋町)
	宿泊先に移動			アパ ホテル

プログラム(2日目)

日程	時間	プログラム	備考	
8 月 21 日 (木)	チェックアウト			アパ ホテル
	8:00 ～ 9:00	朝食セッション	「自分の人生や教育・研究に影響を与えた『本』や『映画』の紹介」	京都大学吉田泉殿
	9:00 ～ 9:10	セッション 3	今年度後半のプログラムについて	
	9:10 ～ 10:40		第 3 期 MOST フェロー 「DIY キットについて（グループワーク）」	
	10:40 ～ 11:00		グループ発表	
	11:00-11:15	休憩		
	11:15 ～ 12:15	セッション 4	第 21 回大学教育研究フォーラムに向けて 大学教育研究フォーラムでの研究発表について	
	12:30 ～	昼食（任意参加／自費）		Luciano
		片付け・解散		

IV-2. 大学生研究フォーラム

1. 概要

学校から仕事・社会へのトランジションを大きな課題として抱える近年の大学教育にとって、職業・社会生活を力強く過ごせるような学生をどう育てるかが喫緊の課題となっている。大学は、もはや単なる知識を教授する場だけでなく、技能・態度（能力）を発達させる場とも見なされて、学生の学びと成長のための教育改革が推進されている。成長指標は、一般的には、学士力の構成次元に示されるような、大きくは知識・技能・態度（能力）で設定されるが、個別の大学や学部によっては、たとえば医療系の「患者の良きパートナーとしての医者の育成」、女子大学の「社会の中で活躍する女性を育てる」、地方大学の「地域の人材育成」といった個性的な指標で設定されることもある。いずれの場合でも、そのような成長指標のもと、学生に学習をさせ、さまざまな活動の機会を与え、育てる、これが推進されている学生の学びと成長パラダイムに基づく教育改革である。

大学生研究フォーラムは、高等教育における教授学習や学びと成長、ファカルティ・ディベロップメントの実践的研究組織・京都大学高等教育研究開発推進センターと東京大学大学総合教育研究センターと、大学生・大学院生への奨学制度で、社会に貢献する有用な人材育成を目指す公益財団法人電通育英会が、現代大学生の姿を理解し、かつ現代社会を力強く生きていける学生を育てるために、企業や社会の関係者の声を聞きながら議論するべく開催するものである。

今年は、プログラムをよりいっそう充実させるために、2点の変更をおこなった。第一に、ジグソーカンファレンスを導入したことである。ジグソーカンファレンスとは、「聞く」「考える」「対話する」「気づく」という今までのフォーラム形式の枠を超え、「選んで聞く」「シェアする」「対話する」「気づく」「統合する」など、参加者がそれぞれ学んだことを持ち寄り、はめ込みながら全体を創りあげるというカンファレンス形式である。高校・大学・企業等の参加者がそれぞれ学べるようなピースセッションを設定した（以下詳述）。二点目に、これまで開催してきた二日目の「高校教諭のためのシンポジウム」を、学校法人河合塾教育研究開発本部に協力を依頼しておこなったことである。

昨年東京大学でおこなった大学生研究フォーラムは、今年ふたたび京都大学に戻して開催した。参加者数は、1日目が365名、2日目が98名であった。

* 大学生研究フォーラムは、特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成」を受けて、国内連携事業の一つとして運営された。

2. プログラムの特徴

1) 一日目のプログラム——大学生研究フォーラム

今年は、①基調講演、② Learningful Talk 1（大学・大学生の今を知る）、③ Learningful Talk 2（企業経営のフロンティアを知る）、④総括パネルディスカッションの構成でプログラムを実施した。各プログラムの概要、登壇者は下記のとおりである。

①基調講演

鈴木 寛（東京大学 公共政策大学院・慶應義塾大学 政策メディア研究科兼総合政策学部）
「社会で通用する人材を育てるための大学の役割、高校の役割」

②ピースセッション #1「代わる大学の入り口と出口 (1)」

【#S1-1】「高校ー大学の新しい連携」

ファシリテータ：溝上 慎一（京都大学 高等教育研究開発推進センター）

- ・三宅 なほみ（東京大学 大学総合教育研究センター）
「埼玉県の高校×東大のコラボ『ジグソーメソッドの推進』」
- ・椋本 洋（立命館大学 理工学部）
「大学・社会での学びに備える『活用・探究』授業」

【#S1-2】「大学生のキャリアと学び」

ファシリテータ：杉田 一真（産業能率大学 経営学部）

- ・川崎 友嗣（関西大学 社会学部）
「キャリア教育が入口と出口をつなぐ」
- ・田澤 実（法政大学 キャリアデザイン学部）
「大学の学びとキャリア意識」

【#S1-3】「変わる企業の人材マネジメント」

ファシリテータ：中原 淳（東京大学 大学総合教育研究センター）

- ・本間 浩輔（ヤフー株式会社 ピープル・デベロップメント統括本部）
「爆速経営に資する人材マネジメントの変化」
- ・美濃 啓貴（株式会社インテリジェンス HITO 本部）
「はたらくを楽しむ社会を実現するための新卒採用」

③ピースセッション #2「代わる大学の入り口と出口 (2)」

【#S2-1】「大学のアクティブラーニング」

ファシリテータ：杉田 一真（産業能率大学 経営学部）

- ・山田 和人（同志社大学 文学研究科）
「同志社大学における全学レベルのプロジェクトベース学習（PBL）」
- ・山内 祐平（東京大学 大学院 情報学環）
「反転授業とともにあるアクティブラーニング」

【#S2-2】「エビデンスベースの大学教育改革」

ファシリテータ：溝上 慎一（京都大学 高等教育研究開発推進センター）

- ・山田 礼子（同志社大学 社会学部）
「エビデンスベースの教育改革+教学 IR のオーバービュー」
- ・鳥居 朋子（立命館大学 教育開発推進機構）
「立命館大学における教学 IR のチャレンジ」

【#S2-3】「大学生と社会人の出会いの場」

ファシリテータ：中原 淳（東京大学 大学総合教育研究センター）

・勝又 あずさ（成城大学 共通教育研究センター）

「汽水域 社会人と成城生とのキャリアワークショップ」

・角 めぐみ（NPO 法人ハナラボ）

「ハナジョブ 女子学生と女子社員が出会い、創る場」

④インテグレーション・セッション

ファシリテータ 3 名（中原淳・杉田一真・溝上慎一）が、ピースセッション #1、#2 で講演された内容をラップアップし、参加しなかった部会の講演内容をシェア・統合した。

⑤ディスカッション

参加者同士でグループをつくり、参加した部会での講演、インテグレーションセッションを受けて、自由に議論した。

⑥ラップアップ

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター）

2）二日目のプログラム——「高校教諭のためのシンポジウム」

学びと成長課題、キャリア教育を見すえた高大接続、学校から仕事・社会へのトランジションをどのようにおこなえばよいか、どこまでやるべきか、という問題が検討された。

【司会】成田 秀夫（河合塾 教育研究開発本部 開発研究職・講師）

① 3 つの講演

・中原 淳（東京大学 大学総合教育研究センター）

「企業研究の立場から」

・杉田 一真（産業能率大学 経営学部）

「大学の立場から」

・三浦 隆志（岡山県立玉島商業高等学校）

「高校の立場から」

②ジグソーセッション

議論したい講演者のいる会場に参加し、ジグソーセッションをおこなった。

【第 1 会場】中原 淳（東京大学 大学総合教育研究センター）

ファシリテータ：山本 啓一（九州国際大学）＋ 堀上 晶子（河合塾）

【第 2 会場】杉田 一真（産業能率大学 経営学部）

ファシリテータ：成瀬 尚志（長崎外国語大学）＋ 井澤 恒夫（河合塾）

【第 3 会場】三浦 隆志（岡山県立玉島商業高等学校）

ファシリテータ：吉村 充功（日本文理大学）＋ 竹内 幸哉（河合塾）

③クロスセッション

参加者同士でグループをつくり、参加した部会での講演、インテグレーションセッションを受けて、自由に議論した。

④クロージング

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター）

3. 大学生研究フォーラム 2014・高校教諭のためのシンポジウムを振り返って

2日間のなかでもっとも考えさせられたことを一点、振り返りとして記しておく。

企業登壇者のお一人から「最近の学生はみんなまじめだけど、癖がない。とがった人が欲しい」と提言があったが、もう一人の企業登壇者が「学生みんながとがっていたら、職場はまわらないですね」とコメントされた。このやりとりが実におもしろかった。とがってはいても、基礎力や学力が弱ければ、これらの大手企業にはたぶん採用されないことまで含めて考えると、この問題は、学校から仕事へのトランジション課題において、学校（大学や高校）は学生の個性を仕事につなげるレベルで育てられるのか、という問いとして受け止められる。彼らは別のところで、「変化慣れしている人」を育てて欲しいとも要望されたが、学校から見ると、一般的には、学生の就職先はインテリジェンスやヤフーだけでなく、メーカーや開発職、公務員、教員など幅が広い。学校が、ある業界に特化した個性を育てるのは、あまり現実的ではないし、課題化が難しいと思われた。しかし、「学び癖を育てて欲しい」という別の提言もあり、それは生涯学習にあわせて十分受け止められるものとも思われた。

2012年に東京大学・京都大学・電通育英会の共催でおこなったビジネスパーソンを対象としたトランジション調査（成果は、中原淳・溝上慎一（編）『活躍する組織人の探究—大学から企業へのトランジション—』東京大学出版会，2014年を参照）をおこなったが、その結果からは、学校経験の職場への規定力はせいぜい10%程度であることが明らかとなった。つまり、たとえ学校経験がすばらしい者でも（たとえば、よく学び、よく遊び、いろいろな活動やプロジェクト、社会活動などに関与してきた者など）、就職して上司と合わない、会社がブラックであったりすれば職業生活はうまくいかないことがある。逆に、上司や会社と合っても、個人の基礎力（学校経験を通じて培ってきた知識・技能・態度〔能力〕の総体とここでは考える）が弱ければ、職場で力強く仕事をしていくことができない。このような見方を支持するトランジション・データが少しずつ蓄積されてきているということである。これに、上述のようなある特定の業界が求める個性を付け加えると、医療系や教育・法曹界などの専門職養成を別として、話はなかなか難しいものとなる。

こうして結局のところ、学校教育は、専門職養成を別として、基礎的な知識、汎用的技能・態度（能力）を育成することが、できる精いっぱいのことではないかと考えられた。もう少し時間をかけて考えてみたい問題である。

4. 付録資料

『大学生研究フォーラム 2014』のプログラム並びに講演録（web上で公開）
(<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/forum/>)

（溝上 慎一）



大学生研究フォーラム2014

京都大学／東京大学／電通育英会共催

大学生研究フォーラム2014は満員の参加者をお迎えし、好評のうちに終了いたしました。
ご参加いただいた皆様、またご登壇いただいた講師の方々、誠にありがとうございました。

来年度の「大学生研究フォーラム2015」は
下記の日程・会場で開催いたします。

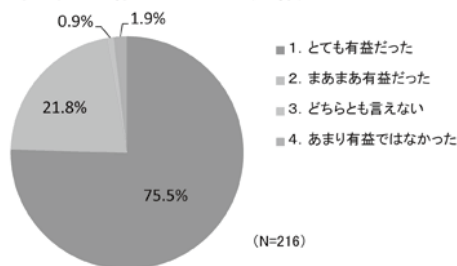
【日時】2015年7月24日（金）
【会場】京都大学 百周年時計台記念館

2015年8月10日頃から予定されている
京都大学百周年時計台記念館の改修工事の影響により
平日開催となりますことをあらかじめご了承ください。
また、例年2日目に開催しておりました「高校教員のためのシンポジウム」につきましては、
7月の平日開催では高校教員の多くが参加できないことが予想されるため、
やむなく中止とさせていただきます。

詳しいプログラムは、決定次第告知いたします。

大学生研究フォーラム2014は、
参加者の97%以上に「有益だった」とご評価いただきました。

本フォーラムは有益でしたか？（全体）





活力ある日本の若者教育をめざして

京都大学・百周年時計台記念館で開催

2008年の第1回開催から数えて7年目を迎える「大学生研究フォーラム2014」。今回は、高校生・大学生のキャリア、学び、企業の採用、人材マネジメントについて考えます。大学の教員、キャリア支援組織の職員、企業関係者、高校の教員の方々が一堂に会して、「変わる大学の入口と出口」について議論を深めていきます。

チャレンジングなジグソーカンファレンス

「聞く」「考える」「対話する」「気づく」という今までのフォーラム形式の枠を超え、「選んで聞く」「シェアする」「対話する」「気づく」「統合する」など、参加者がそれぞれのパーツを持ち寄り、はめ込みながら全体を創りあげていくという、これまでに無いチャレンジングな形式で進められるカンファレンスとなっています。

[大学生研究フォーラム 開催概要](#)

(併催)高校教員のためのシンポジウム [開催概要](#)

大学生研究フォーラム2014

「変貌する大学の入口と出口： 大学・企業に何ができるか」

<開催日>

2014年7月27日（日） 9：30～17：35（昼食付）

<会場>

京都大学・百周年時計台記念館 [>会場へのアクセスマップ](#)

<主催>

京都大学高等教育研究開発推進センター、東京大学大学総合教育研究センター、公益財団法人電通育英会

■開催スケジュール

9:00 開場

9:30～ フォーラム趣旨説明

溝上 慎一（京都大学 高等教育研究開発推進センター）

9:40～10:40 基調講演

「社会で通用する人材を育てるための大学の役割、高校の役割」

鈴木 寛（東京大学 公共政策大学院・慶應義塾大学 政策メディア研究科兼総合政策学部）

10:40～11:00 ジグソーカンファレンスの楽しみ方

中原 淳（東京大学 大学総合教育研究センター）

11:00～12:30 主催者挨拶・ランチセッション

【主催者挨拶】京都大学、東京大学、電通育英会

※昼食の際、隣席の方と自己紹介・名刺交換を行います。名刺をご持参ください。

12:30～13:45 ピースセッション#1 「変わる大学の入口と出口(1)」

【#S1-1】 「高校ー大学の新しい連携」

ファシリテータ： 溝上 慎一（京都大学 高等教育研究開発推進センター）

・「埼玉県の高校×東大のコラボ 『ジグソーメソッドの推進』」

三宅 なほみ（東京大学 大学総合教育研究センター）

・「大学・社会での学びに備える 『活用・探究』 授業」

椋本 洋（立命館大学 理工学部）

【#S1-2】 「大学生のキャリアと学び」

ファシリテータ： 杉田 一真（産業能率大学 経営学部）

・「キャリア教育が入口と出口をつなぐ」

川崎 友嗣（関西大学 社会学部）

・「大学の学びとキャリア意識」

田澤 実（法政大学 キャリアデザイン学部）

【#S1-3】 「変わる企業の人材マネジメント」

ファシリテータ： 中原 淳（東京大学 大学総合教育研究センター）

・「爆速経営に資する人材マネジメントの変化」

本間 浩輔（ヤフー株式会社 ビーブル・デベロップメント統括本部）

・「はたらくを楽しむ社会を実現するための新卒採用」

美濃 啓貴（株式会社インテリジェンス HITO本部）

14:00～15:15 ピースセッション#2 「変わる大学の入口と出口(2)」

【#S2-1】 「大学のアクティブラーニング」

ファシリテータ： 杉田 一真（産業能率大学 経営学部）

・「同志社大学における全学レベルのプロジェクトベース学習（PBL）」

山田 和人（同志社大学 文学研究科）

・「反転授業とともにあるアクティブラーニング」

山内 祐平（東京大学 大学院 情報学環）

【#S2-2】 「エビデンスベースの大学教育改革」

ファシリテータ： 溝上 慎一（京都大学 高等教育研究開発推進センター）

・「エビデンスベースの教育改革＋教学IRのオーバービュー」

山田 礼子（同志社大学 社会学部）

・「立命館大学における教学IRのチャレンジ」

鳥居 朋子（立命館大学 教育開発推進機構）

【#S2-3】 「大学生と社会人の出会いの場」

ファシリテータ： 中原 淳（東京大学 大学総合教育研究センター）

・「汽水域 社会人と成城生とのキャリアワークショップ」

勝又 あずさ（成城大学 共通教育研究センター）

・「ハナジョブ 女子学生と女子社員が出会い、創る場」

角 めぐみ（NPO法人ハナラボ）

15:30～16:30 インテグレーション・セッション

【司会】 中原 淳（東京大学 大学総合教育研究センター）

16:30～17:20 ディスカッション

【司会】 中原 淳（東京大学 大学総合教育研究センター）

16:30～16:50 ピースのシェア

16:50～17:20 インテグレーション・ダイアログ

17:20～17:35 ラップアップ

溝上慎一（京都大学 高等教育研究開発推進センター）

(併催)高校教員のためのシンポジウム

「大学だけでなく社会ともつながる 高校教育の構築」

<開催日>

2014年7月28日（月） 10:00～17:00（昼食付）

<会場>

京都大学・百周年時計台記念館 [>会場へのアクセスマップ](#)

<主催>

京都大学高等教育研究開発推進センター、東京大学大学総合教育研究センター、
公益財団法人電通育英会

<協力>

河合塾

■開催スケジュール

9:30 開場

10:00～ 趣旨説明

溝上 慎一（京都大学 高等教育研究開発推進センター）

10:05～10:20 シンポジウムの流れと大学生研究フォーラム2014のレビュー

成田 秀夫（河合塾 教育研究開発本部）

10:20～10:55 講演（1）

企業研究の立場から

中原 淳（東京大学 大学総合教育研究センター）

10:55～11:30 講演 (2)

大学の立場から

杉田 一真 (産業能率大学 経営学部)

11:40～12:15 講演 (3)

高校の立場から

三浦 隆志 (岡山県立玉島商業高等学校)

12:15～13:30 主催者挨拶・ランチセッション

【主催者挨拶】京都大学、東京大学、電通育英会

13:30～15:00 ジグソーセッション

【第1会場】

ファシリテータ: 山本 啓一(九州国際大学)+ 堀上 晶子(河合塾)

中原 淳 (東京大学 大学総合教育研究センター)

【第2会場】

ファシリテータ: 成瀬 尚志(長崎外国語大学)+ 井澤 恒夫(河合塾)

杉田 一真 (産業能率大学 経営学部)

【第3会場】

ファシリテータ: 吉村 充功(日本文理大学)+ 竹内 幸哉(河合塾)

三浦 隆志 (岡山県立玉島商業高等学校)

15:20～16:40 クロスセッション

16:40～17:00 クロージング

溝上慎一 (京都大学 高等教育研究開発推進センター)

■大学生研究フォーラム 登壇者のプロフィール



鈴木 寛 (すずき かん) 氏

東京大学 公共政策大学院 教授、
慶應義塾大学 政策メディア研究科兼総合政策学部 教授

日本の政治家、社会学者。1986年通商産業省に入省。参議院議員(2期)、文部科学副大臣を歴任した。超党派スポーツ振興議連幹事長、東京オリンピック・パラリンピック招致議連事務局長、日本ユネスコ委員など。



三宅 なほみ (みやけ なほみ) 氏

東京大学大学院 大学総合教育研究センター 教授

専門は認知科学、学習科学。対話など協調的な過程によって理解が深化する仕組みを解明し、その知見を教育現場に活用。一人一人が賢くなれる協調的な学習活動のデザインから実践・評価までを実践的に研究している。



原本 洋（むくもと ひろし）氏
立命館大学 理工学部 非常勤講師

2002年大阪府立住吉高校校長を退職。2002年立命館大学教授に就任。2012年定年退職。その間、立命館大学高大連携推進室副室長、接続教育センター長、大学コンソーシアム京都高大連携室室長を歴任。



杉田 一真（すぎた かずま）氏
産業能率大学 経営学部 准教授

慶應義塾大学総合政策学部および同大学法学部法律学科を卒業後、同大学法学研究科修士課程を修了。戦略系コンサルティング企業を経て、2008年4月、嘉悦大学経営学部専任講師に就任。2013年4月より現職。



川崎 友嗣（かわさき ともつぐ）氏
関西大学 社会学部 教授

早稲田大学大学院文学研究科修了。日本労働研究機構研究員を経て、1997年関西大学社会学部助教授、2003年より現職。専門は職業心理学、キャリア心理学。生涯にわたるキャリア発達とその支援という枠組みで研究している。



田澤 実（たざわ みのる）氏
法政大学 キャリアデザイン学部 准教授

2007年 中央大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程単位取得退学。博士（心理学）。法政大学キャリアデザイン学部 助教、専任講師を経て、2013年より現職。



本間 浩輔（ほんま こうすけ）氏
ヤフー株式会社 執行役員 ビーブル・デベロップメント統括本部長

1968年生まれ。早大卒業後、野村総合研究所に入社。2000年スポーツナビゲーション株式会社を創業。同社のヤフーグループ入りにより、2002年ヤフーに入社。スポーツ企画部長、人事本部長を経て現職。



美濃 啓貴（みの ひろたか）氏
株式会社インテリジェンス HITO[®]本部 本部長

中央大学経済学部卒、中央大学大学院戦略経営研究科修了、99年に新卒でインテリジェンス入社、人材紹介事業の現場に約10年携わった後、DODA編集長、HITO総研設立などを経て、2013年1月より現職。
※Humanity, Intelligence & Talent for Organizations



山田 和人（やまだ かずと）氏
同志社大学 文学研究科 博士課程後期課程 教授

PBL推進支援センター長、専門は日本近世芸能・演劇の研究（文楽・歌舞伎・からくり等）。著書に『古浄瑠璃の研究と資料』、編著『豊竹座浄瑠璃集三』他多数。



山内 祐平（やまうち ゆうへい）氏
東京大学大学院 情報学環 准教授

大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程中退後、茨城大学人文学部助教授を経て現職。博士（人間科学）。情報化社会における学習環境のデザインについてプロジェクト型の研究を展開している。



山田 礼子（やまだ れいこ）氏
同志社大学 社会学部 教授、教育支援機構 副機構長、
学習支援・教育開発センター長

主な研究領域は比較高等教育、初年次教育など。『学士課程教育の質保証へむけて：学生調査と初年次教育から見えてきたもの』2012年 東信堂（単著）、その他著書・論文多数。



鳥居 朋子（とりい ともこ）氏
立命館大学 教育開発推進機構 教授

名古屋大学大学院教育学研究科博士後期課程満期退学。博士（教育学）。2009年より現職。高等教育マネジメント研究の視点から、教学IRの開発および学生の学びの実態に基づく教育改善の方法を追求している。



勝又 あずさ（かつまた あずさ）氏
成城大学 共通教育研究センター 特別任用准教授

1986年ソニー株式会社入社 商品PR、人材育成を経て2010年より成城大学にてキャリアデザイン科目を担当。学生達と企画した授業が経済産業省「社会人基礎力を育成する授業30選」に入選。慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程。



角 めぐみ（すみめぐみ）氏
NPO法人ハナラボ 代表理事

東京女子大学、武蔵野美術大学卒。武蔵野美術大学非常勤講師。「女子学生ための就活応援サイトハナジョブ」運営。「社会課題を解決を通して女子学生のリーダーシップを育む」NPO法人ハナラボ主宰。



中原 淳（なかはら じゅん）氏
東京大学 大学総合教育研究センター 准教授

東京大学、大阪大学大学院、メディア教育開発センター、マサチューセッツ工科大学客員研究員、2006年より現職。経営学習論。「大人の学びを科学する」をキーワードに、高等教育・企業人材育成等を研究。



溝上 慎一（みぞかみ しんいち）氏
京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授

1996年京都大学高等教育教授システム開発センター助手、2003年同准教授を経て2014年より現職。自己形成論、青年心理学、学生の学びを中心としたFDと大学生研究を行っている。

■高校教員のためのシンポジウム 登壇者のプロフィール



成田 秀夫（なりた ひでお）氏
学校法人河合塾 教育研究開発本部 開発研究職・講師

河合塾現代文講師の傍ら、大学生向けの「日本語表現講座」や「レポート作成・プレゼン講座」を開発し、大学でも教鞭をとっている。07年より経済産業省の提唱する社会人基礎力の育成と評価手法の研究開発に携わる。



三浦 隆志 (みうら たかし) 氏
岡山県立玉島商業高等学校 校長

1958年生まれ。岡山操山高等学校進路指導課長、勝山高等学校教頭・副校長を経て、今年度から現職。高校生のキャリア形成、コミュニケーションによる承認構造の仕組みを研究課題にしている。

■大学生研究フォーラム2014
お問い合わせ先

(公財) 電通育英会 事務局
担当：里村、野崎
〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17
電通銀座ビル4F
TEL：03-3575-1386
chosa@dentsu-ikueikai.or.jp

■高校教員のためのシンポジウム
お問い合わせ先

(公財) 電通育英会 事務局
担当：里村、野崎
〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17
電通銀座ビル4F
TEL：03-3575-1386
chosa@dentsu-ikueikai.or.jp

Copyright ©1983-2014 Dentsu Ikueikai. All rights reserved.

IV-3. 大学教育研究フォーラム

1. 概要

大学教育研究フォーラムは、京都大学高等教育研究開発推進センターが1994年度より年1回開催してきたものである。今年で21回目を迎える（2015年3月13日・14日開催予定）。毎年600名近くの大学教職員関係者が参加する、全国的にも広く認知された大学教育に関する研究・実践交流の場である。

同フォーラムは、FD（ファカルティ・ディベロップメント）や教授法・カリキュラム・教育評価・E-learning / 遠隔教育 / 大学生 / 大学生活といった諸領域における、学内・学外の大学教育関連の最先端の実践知をあまねく集積する場として開催するものである。最近の趨勢をふまえた最先端の知見は、学内外の教育改善推進に大きく貢献すると考えられている。

大学教育研究フォーラムは、学校法人河合塾教育研究開発本部、関西地区FD連絡協議会の協賛を得て、運営されている。

2. プログラムの特徴

大学教育研究フォーラムは、約15年、①基調講演、②シンポジウム、②小講演、③参加者企画セッション、④個人研究発表のプログラム構成で実施されてきたが、本年度（第21回）より、以下2点の拡張を試みた。第1に、「MOSTフェロー発表会」のセッションを企画したことである。これは、フォーラム全体のなかで、授業づくりに関する報告やセッションが弱いというアンケート結果を受けての改善策である。第2に、個人研究発表に「ポスター発表」形式を採り入れたことである。従来の口頭発表形式も残しているので、発表者は好きな形式での個人発表をおこなうことができる。このような改善が功を奏したかは定かではないが、これまで80～90件だった個人研究発表数が、本年度は140件まで伸びた。一つの成果だとも言える。

以下は、各プログラムの特徴、ならびに本年度の具体的プログラムである。

①基調講演

佐藤邦明（文部科学省 高等教育局高等教育企画課国際企画室 国際企画専門官）

「グローバル時代における大学教育の国際化を考えるー政策的見地を踏まえてー」

②シンポジウム

「大学教育の国際化×正課正課外における主体的な学び」

報告者1 芦沢真五（東洋大学 国際地域学部 国際地域学科 教授）

報告者2 飯吉透（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授 / センター長）

報告者3 落合一泰（一橋大学大学院社会学研究科 教授）

司 会 田口真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

③小講演 各論的に、具体的なトピックを8つ取り上げ、最先端の知見を提供する。本年度は下記のテーマで講演者に依頼をおこなっている。

- ・青木深（一橋大学学生支援センター 特任講師）
「一橋大学大学院におけるアカデミック・キャリア支援の取り組み―併走する「若手研究者」の視点から―」
- ・石井英真（京都大学大学院教育学研究科 准教授）
「パフォーマンス評価とルーブリックの基礎と最前線」
- ・水谷雅彦（京都大学文学研究科 教授 / 附属応用哲学・倫理学教育研究センター長）
「研究倫理と研究公正（仮）」
- ・近田政博（神戸大学大学教育推進機構 教授）
「論理的思考を養うアカデミック・ライティング教育のあり方」
- ・田坂さつき（立正大学文学部哲学科 教授）
「障がいや難病を生きる人達との哲学対話―ICTを活用したアクティブラーニング―」
- ・山田剛史（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 副室長 / 准教授）
「高等教育質保証のインパクト―FDから学習成果、IRへ―」
- ・大塚雄作（独立行政法人大学入試センター試験・研究副統括官 教授）
「大学入試改革の新動向と課題―日本の大学入試風土と高大接続答申の狭間で―」
- ・重田勝介（北海道大学情報基盤センター 准教授）
「オープンエデュケーションによる大学教育改善―反転授業を導入する道内国立大学教養教育連携の事例から―」

④ MOST フェロー発表会

⑤参加者企画セッション ある特定のテーマでの研究・実践交流を促す目的で、一般参加者から募集するセッションである。本年度では「最難関大学、高難易度学部生が求める英語授業、学習、教師像―「異質性」の実像化と正統化―」「学生とともに授業を創ろう」「ディープ・アクティブラーニング―反転授業とリーダーシップ教育を事例として―」など11件の応募があった。

⑥個人研究発表 「FD・授業公開」「教育評価」「カリキュラム」「授業研究」「教育評価」「e-Learning・遠隔教育」「大学生・大学生活」の研究部会を用意し、大学教育実践研究の交流の場としている。口頭発表とポスター発表の2形式としたことは、冒頭で述べたとおりである。本年度は154件の応募があった。2011年度の申し込みが77件、2012年度の申し込みは96件、2013年度の申し込みが92件であったから、1.5倍以上に申込数が増えたと言える。

3. その他の拡張

本年度より、さらに以下3点の拡張もおこなっている。

- ・12月に作成・刊行していたプログラム集を廃止にし、その代わり、個人研究発表の要旨提出を11月末末切から1年半ばへと遅らせたことである。当日の報告に近い要旨を提出してほしいという、参加者からのリクエストがあつての改善である。これにともなって、ウェブサイト上では、仮のプログラム集（『発表論文集』）の目次ページのワード原稿のPDFであり、印刷

業者に入稿する前のもの)を随時アップデートしながら、発表者・参加者にプログラム案内をおこなっている。

・1日目午後の時計台でのプログラムを拡張したため、参加者が500名定員の1Fホールに収容できないことが懸念される。その場合、別教室(本年度は工学部8号館教室)で遠隔操作による映像配信をおこなう。

・基調講演・シンポジウム・小講演の登壇者の講演を、YouTubeからビデオ配信することである。昨年は試行的におこない、フォーラムのウェブページに下記のようにビルトインした。



<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/forum/movie/movie2013.html>

4. 付録資料

□ 『第21回大学教育研究フォーラム プログラム』(2015年1月15日版)
(<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/forum/2014/pdf/program20150115.pdf>)

(溝上 慎一)

第21回大学教育研究フォーラム

◆日 程 2015年3月13日(金)～14日(土)

◆会 場 京都大学 吉田キャンパス

【個人研究口頭発表 / ポスター発表・参加者企画セッション】 総合館北棟(吉田南構内)

【小講演】 総合館北棟(吉田南構内)

【MOSTフェロー発表会・シンポジウム(基調講演 / パネルディスカッション)】

百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール(本部構内)

【情報交換会】 百周年時計台記念館・2F国際交流ホール(本部構内)

3月13日(金)

受 付 8:15～12:30 ……………【総合館北棟・共北12】
12:30～ ……………【百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール】

個人研究口頭発表 9:00～11:00 ……………【総合館北棟】

9:00～9:20 個人発表① *1人あたりの時間20分
9:20～9:40 個人発表② (発表時間15分+質疑応答3分+2分交代)
9:40～10:00 個人発表③
10:00～10:20 個人発表④
10:20～10:40 個人発表⑤
10:40～11:00 個人発表⑥

【お知らせ】

- ・今年から個人研究発表は、「口頭発表」「ポスター発表」の2形式になります。
- ・1部会における口頭発表数は④から⑥へと変更しています。これにともない、最後の全体討論は廃止としました。

個人研究ポスター発表 9:00～11:00 *在席義務時間 9:00～10:00
……………【総合館北棟】

小 講 演 11:25～12:25 ……………【総合館北棟】

MOSTフェロー発表会 13:25～14:25
……………【百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール】

【お知らせ】

- ・「MOSTフェロー発表会」は新規セッションです。

シンポジウム 14:40～18:25 ……【百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール】

挨 拶 14:40～14:50

基 調 講 演 14:50～15:50

パネルディスカッション 15:55～18:25

情 報 交 換 会 18:45～20:40 ……【百周年時計台記念館・2F国際交流ホール】

3月14日(土)

受 付 8:30~13:30 【総合館北棟・共北12】

個人研究口頭発表 9:00~11:00 【総合館北棟】

9:00~ 9:20 個人発表① *1人あたりの時間20分

9:20~ 9:40 個人発表② (発表時間15分+質疑応答3分+2分交代)

9:40~10:00 個人発表③

10:00~10:20 個人発表④

10:20~10:40 個人発表⑤

10:40~11:00 個人発表⑥

【お知らせ】

・1部会における口頭発表数は④から⑥へと変更しています。
これにともない、最後の全体討論は廃止としました。

小 講 演 11:25~12:25 【総合館北棟】

参加者企画セッション 13:30~16:00 【総合館北棟】

3月13日(金) 1日目

個人研究口頭発表 9:00~11:00

総合館北棟

部会1【会場：総合館北棟 共北25】

- 機関調査(IR)に関する一考察 p.36
 本西孝收(神戸学院大学)
- ゴミ箱モデルを援用したIRの意思決定支援機能に関する研究 p.38
 小川 勤(山口大学)
- 福井県大学間連携事業(Fレックス)における教学IRの取り組み
 —継続的な学生意識調査の実施と分析— p.40
 徳野淳子(福井県立大学)・田中洋一(仁愛女子短期大学)・山川 修(福井県立大学)
- 内部質保証のために学修時間の質・量を向上させる仕組み
 —データに基づく検証システム(IR)と組織的な改善活動— p.42
 橋本智也(京都光華女子大学)
- 日本における大学効果研究の試み—医学系大学を例として— p.44
 孫 媛(国立情報学研究所)・登藤直弥(国立情報学研究所)
 井上俊哉(東京家政大学)

部会2【会場：総合館北棟 共北26】

- 大学における「パーソナル・ライティング」の教育的意義
 —基礎教養としての〈私〉、それをはぐくむエッセーという考え方— p.46
 谷 美奈(帝塚山大学)
- 3年間を通した文章表現科目のモデレーションについて p.48
 成瀬尚志(京都光華女子大学短期大学部)・安江枝里子(長崎外国語大学)
 坂本彩希絵(長崎外国語大学)
- ライティング・サポート・デスクの理念と実践—立命館大学の事例報告— p.50
 野村 優(立命館大学)・中島 梓(立命館大学)・鹿島萌子(立命館大学)
- 主体的な学びを促すアカデミック・ライティングの段階的指導法の開発 p.52
 中東雅樹(新潟大学)・津田純子(新潟大学)
- アカデミック・アドバイジングによる修学支援と質保証—資格取得コースの課題— p.54
 中村章二(愛知教育大学)

部会3【会場：総合館北棟 共北37】

- アクティブ・ラーニングに必要な学修環境
 —ラーニングコモンズの活用とファシリテータによる学修支援— p.56
 西浦昭雄(創価大学)・池ヶ谷浩二郎(創価大学)
- 利用実態からみるラーニング・コモンズの学びの行為 p.58
 鈴木夕佳(同志社大学)・岡部晋典(同志社大学)・浜島幸司(同志社大学)
- 大学教育におけるコラボレーションの創出—正課授業×学習支援センター×図書館— p.60
 橋本信子(大阪商業大学)

次ページに続く 

3月13日(金) 1日目

教師教育者をめざす大学院生に必要な授業実践の模索	p.62
久恒拓也(広島大学)	
静岡大学教員免許更新講習必修領域の効果に関する研究	
ー受講者が講習に対して感じた意義についてー	p.64
望月耕太(静岡大学)	
教職志望学生の正課外活動を通じた学びー教員の資質能力の成長に着目してー	p.66
横山 香(兵庫教育大学)・村上明生(兵庫教育大学)・赤松幸子(兵庫教育大学)	
森田哲之(兵庫教育大学)	

部会4【会場：総合館北棟 共北38】

「学生FD」の意義と可能性	p.68
木野 茂(立命館大学)	
学生FD活動の拡大を促進・強化している要因についての一考察	
ーモチベーション論の視点をを用いてー	p.70
村山孝道(京都文教大学)	
学生参加型FD・教育改善をめぐる論点と課題	p.72
服部憲児(京都大学)	
大規模私立大学におけるFD活動への学生参画システムの構築	
ー東洋大学における事例報告ー	p.74
曾根健吾(東洋大学)・千明 誠(東洋大学)	
「学生による授業コンサルティング(SCOT)」プログラムがもたらしたもの	
ー教員、FDセンターに焦点をあててー	p.76
井上史子(帝京大学)・森 玲奈(帝京大学)	
「学生による授業コンサルティング」において大学生は何を学んでいるのか	p.78
森 玲奈(帝京大学)・井上史子(帝京大学)	

部会5【会場：総合館北棟 共北28】

大学における休・退学防止の検討ー学内組織連携型の学生支援策に注目してー	p.80
岩崎保道(高知大学)	
数理におけるクリティカルシンキングの意識及び志向性の評価・分析	p.82
谷口進一(金沢工業大学)・西 誠(金沢工業大学)・山岡英孝(金沢工業大学)	
教職課程担当教員としての意識形成プロセスに関する質的研究	p.84
境 愛一郎(広島大学)・相馬宗胤(広島大学)	
通信制大学における集中型対面授業が協同作業認識に与える効果について	p.86
秋光淳生(放送大学)	
女子大学生の金融リテラシーと金融教育	p.88
水野英雄(椙山女学園大学)・中野友貴(椙山女学園大学)	
平賀夕稀(椙山女学園大学)	

3月13日（金） 1日目

部会6 【会場：総合館北棟 共北31】

- ロールレタリングを用いたキャリア教育の試み p.90
佐瀬竜一（常葉大学）
- 教員アドバイザーを支援する学習支援 p.92
山崎めぐみ（創価大学）
- 学生のニーズに応じた教職協働による学習支援の展開 p.94
今川新悟（立命館大学）・蔵城一樹（立命館大学）・土岐智賀子（立命館大学）
- 「学生の力」を活用した正課外学習支援活動の可能性
－学生アドバイザー（SLA）の成長に焦点を当てて－ p.96
足立佳菜（東北大学）・鈴木 学（東北大学）
- 学生・教員・図書館職員の協働による学修支援の取り組み p.98
亀岡由佳（徳島大学）・佐々木奈三江（徳島大学）・岩野宏治（徳島大学）
吉田 博（徳島大学）
- 教員養成改革の方向性とその課題－他専門職養成課程との比較を通して－ p.100
中居舞子（広島大学）・張 磊（広島大学）・安喰勇平（広島大学）

部会7 【会場：総合館北棟 共北32】

- 芝浦工業大学における新任教員研修プログラム p.102
榊原暢久（芝浦工業大学）・ホートン広瀬恵美子（芝浦工業大学）
- 持続可能な教育支援システムの運用と新規採用教員研修 p.104
江本理恵（岩手大学）
- SPODにおいて標準化された新任教員研修の成果と課題 p.106
吉田 博（徳島大学）・宮田政徳（徳島大学）・上岡麻衣子（徳島大学）
山田剛史（愛媛大学）
- 外国人留学生科目「自律学習」におけるメタ認知のつまづきを探る p.108
小林ひとみ（神田外語大学）
- 大学改革に資する技術系職員のキャリア形成について p.110
安原裕子（静岡大学）・佐藤龍子（静岡大学）・遠山紗矢香（静岡大学）
- 折り合いの3年 Three-Year-Compromise の実現に向けて
－雇用側がさせない、被雇用側が報告する、就職3年残業－ p.112
菅野憲司（千葉大学）

3月13日(金) 1日目

個人研究ポスター発表 9:00~11:00 *在席義務時間9:00-10:00

総合館北棟2F 東側ラウンジ

- 1 実践と思考の熟達化過程—理学療法版「考える OSCE-R」での学生の臨床推論の可視化— p.114
 平山朋子(藍野大学)・松下佳代(京都大学)・西村 敦(藍野大学)
 新保健次(藍野大学)・杉本明文(藍野大学)・何川 渉(藍野大学)
- 2 問題解決能力育成を目指したPBL形式カリキュラム「薬物治療学」の実践とPBL支援システムの開発—6年間の実績と学習効果— p.116
 大津史子(名城大学)・永松 正(名城大学)・灘井雅行(名城大学)
 後藤伸之(名城大学)・長谷川洋一(名城大学)
- 3 アクティブラーニング型授業における学生の自己評価支援 p.118
 森 裕生(早稲田大学)・江木啓訓(神戸大学)・尾澤重知(早稲田大学)
- 4 ゼミナールの授業外での活動に関する探索的研究 p.120
 伏木田稚子(東京大学)
- 5 地域産業界と連携したPBL型演習の実践報告—受講者間での相互評価を中心とした分析— p.122
 酒井徹也(静岡大学)・須藤 智(静岡大学)・坂井敬子(静岡大学)
 永山ルツ子(静岡英和学院大学)・野瀬元子(静岡英和学院大学)
 日比優子(静岡英和学院大学)
- 6 当日ブリーフレポート方式(BRD)の講義における口頭発表 p.124
 宇田 光(南山大学)
- 7 教員養成課程におけるアクティブ・ラーニング型授業デザインの検討 p.126
 沼上朋恵(上越教育大学)
- 8 教学IRにおいて正課教育と課外活動とをどのようにつなぐか?
 —正課と課外の関連性に関する学生の認識に着目して— p.128
 川那部隆司(立命館大学)・河井 亨(立命館大学)・鳥居朋子(立命館大学)
 辰野 有(立命館大学)・今川新悟(立命館大学)
- 9 教育プログラムの質保証を支援する教学データベースシステムの構築 p.130
 五島譲司(新潟大学)・澤邊 潤(新潟大学)・並川 努(新潟大学)
 濱口 哲(新潟大学)・鳴海敬倫(新潟大学)
- 10 雄飛館ラーニングコモンズでの学生スタッフ活動による学生の成長と全学的学習活動への波及効果
 松井きょう子(京都産業大学)・千葉美保子(京都産業大学) p.132
 雄飛館ラーニングコモンズ学生スタッフ(京都産業大学)
- 11 ラーニングコモンズにおける学習支援の取り組みとその評価—ラーニングCaféを事例に— p.134
 佐々木知彦(関西大学)・齊尾恭子(島根大学)・岩崎千晶(関西大学)
- 12 ラーニングコモンズにおける学習環境をデザインする p.136
 市村賢士郎(京都大学)・伊川美保(京都大学)・河村悠太(京都大学)
 Arseny Tolmachev(京都大学)・長見祐暉(京都大学)・高橋雄介(京都大学)
 楠見 孝(京都大学)
- 13 Web-based FDの検討—これまでの実践を補助線に— p.138
 米谷 淳(神戸大学)
- 14 大学教員のFDに関する意識と取り組みの在り方の分析・可視化 p.140
 平 知宏(大阪市立大学)・飯吉弘子(大阪市立大学)

次ページに続く 

3月13日(金) 1日目

- 15** 大学教員の授業リフレクションを促進する概念マップの活用 ————— p.142
茅島路子(玉川大学)・宇井美代子(玉川大学)・前田啓輔(広島大学)
林 雄介(広島大学)・平嶋 宗(広島大学)
- 16** 大学教員の意識と実践にみる思考力育成とその教授法の考察
—批判的に思考する力と態度の教育検討のために— ————— p.144
飯吉弘子(大阪市立大学)・平 知宏(大阪市立大学)
- 17** 授業評価に適した記述型回答法の提案 ————— p.146
小島隆次(滋賀医科大学)・藤岡俊平(滋賀医科大学)
- 18** 大学共創と授業アンケート ————— p.148
神谷 諒(京都産業大学)・田村玖美(京都産業大学)・徳田義貴(京都産業大学)
福島寛史(京都産業大学)・竹谷美里(京都産業大学)・飯田実乃里(京都産業大学)
林 美希(京都産業大学)・森脇可奈子(京都産業大学)
- 19** 学修支援者としての事務職員育成プログラムの開発 ————— p.150
竹中喜一(関西大学)・岩崎千晶(関西大学)・杉本仁嗣(関西大学)
森 朋子(関西大学)
- 20** ユビキタス映像記録視聴システムを活用した授業研究の試み(IV) ————— p.152
平山 勉(名城大学)・後藤明史(名古屋大学)・竹内英人(名城大学)
- 21** ペア学習における学生間の温度差について(1) ————— p.154
森田慶子(大分県立看護科学大学)・吉村匠平(大分県立看護科学大学)
- 22** ペア学習における学生間の温度差について(2) ————— p.156
吉村匠平(大分県立看護科学大学)・森田慶子(大分県立看護科学大学)
- 23** レポート課題における課題構造と問題解決手段との関連 ————— p.158
福田 健(清泉女子大学)
- 24** 「ことば」をめぐる学際型教養科目の試み ————— p.160
小町将之(静岡大学)・田村敏広(静岡大学)・堀内裕晃(静岡大学)
Corbeil, Steve(静岡大学)
- 25** 学生の社会とつながる態度の涵養を目指した技術習得系科目の授業デザインの検討
—経済学部の情報処理科目を対象に— ————— p.162
奥田麻衣(神奈川大学)
- 26** 保健医療福祉学部の初年次科目「スタートアップ・セミナー」の取り組みについて ——— p.164
石原正三(埼玉県立大学)
- 27** Web サービスのログ解析による利用状況の把握と学生支援 ————— p.166
有田亜紀子(清泉女子大学)・白石哲也(清泉女子大学)
- 28** 学生寮におけるピアサポーターの成長に関する一考察
—お茶大 SCC のレジデント・アシスタントを事例として— ————— p.168
北澤泰子(お茶の水女子大学)・望月由起(お茶の水女子大学)
霜島美和(お茶の水女子大学)
- 29** 理工系人材育成におけるグローバルコンピテンシー獲得の可視化に関する考察 ————— p.170
宮浦 崇(九州工業大学)・林 朗弘(九州工業大学)・水井万里子(九州工業大学)
西野和典(九州工業大学)
- 30** キャリア教育と学生のキャリア Re デザイン—学生の転部や編入に着目して— ————— p.172
白井章詞(九州産業大学)

3月13日（金） 1 日目

- 31** 理学療法士を目指す大学生を対象とした VPI 職業興味検査のクラスター分析による 10 年間の傾向について ————— **p.174**
内田賢一（神奈川県立保健福祉大学）・高木峰子（神奈川県立保健福祉大学）
鈴木智高（神奈川県立保健福祉大学）・小池友佳子（神奈川県立保健福祉大学）
黒澤千尋（神奈川県立保健福祉大学）・濱野敏明（藤沢市民病院）
- 32** 接続教育としての「探究活動」への博物館アプローチ
— 京都大学総合博物館特別展「学びの海への船出」をもとに ————— **p.176**
蒲生諒太（京都大学）・大野照文（京都大学）
- 33** インターンシップの質的向上に向けて必要な専門人材とは ————— **p.178**
後藤綾文（三重大学）
- 34** 学生ステークホルダーの育成のためのゲーミフィケーション ————— **p.180**
辻 高明（秋田大学）
- 35** 公立大学の拡大過程における学部学科構成の変化とその特徴 ————— **p.182**
山本裕子（早稲田大学）

3月13日(金) 1日目

小講演 11:25~12:25

総合館北棟

一橋大学大学院におけるアカデミック・キャリア支援の取り組み

ー併走する「若手研究者」の視点からー 【会場：総合館北棟 共北31】

p.27

青木 深（一橋大学学生支援センター 特任講師）

【司会】田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）

パフォーマンス評価とルーブリックの基礎と最前線 【会場：総合館北棟 共北32】

p.28

石井 英真（京都大学大学院教育学研究科 准教授）

【司会】松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）

研究倫理と研究公正ーその現状と大学教育ー 【会場：総合館北棟 共北37】

p.29

水谷 雅彦（京都大学文学研究科 教授 / 附属応用哲学・倫理学教育研究センター長）

【司会】飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授 / センター長）

論理的思考を養うアカデミック・ライティングのあり方 【会場：総合館北棟 共北38】

p.30

近田 政博（神戸大学大学教育推進機構 教授）

【司会】酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）

3月13日（金） 1日目

MOSTフェロー発表会「FD笑百科 — MOSTフェロー流授業改善術 —」
13:25~14:25 百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール

趣 旨

京都大学高等教育研究開発推進センターでは、特徴ある授業実践をおこなっている全国の大学教員が参加する MOST フェローシッププログラムを、2012 年より実施してきました。MOST フェローは、対面やオンラインで交流しながら、1 年間かけてそれぞれの授業改善に取り組み、授業実践の中で直面する様々な教育的課題を相互の実践知から解決する大学教員の情報共有コミュニティを目指して活動しています。今回の大学教育研究フォーラムでは、初の試みとして、歴代 MOST フェローの先生がたが中心となり企画する授業改善のセッションが設けられました。第1回となる今回は、「アクティブラーニングを導入してみたがどうもうまくいかない」という大学教員の悩みに対し、MOST フェローそれぞれの実践事例を用いながらアドバイスを加えるというシナリオを通じて、フェローシッププログラムを通じて取り組んだ教育改善活動の一端を、ユーモアを交えて楽しく紹介します。

- 報 告 者 村井 淳志（金沢大学 学校教育学類 教授）
 勝又 あずさ（成城大学 共通教育研究センター 特別任用准教授）
 村上 裕美（関西外国語大学短期大学部 准教授）
- 司 会 木村 修平（立命館大学 生命科学部 准教授）
- 特別協力 村上 正行（京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター 准教授）

3月13日(金) 1日目

シンポジウム「大学教育の国際化×正課正課外における主体的な学び」

14:40~18:25

百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール

挨拶 14:40~14:50

山極 壽一(京都大学総長)

基調講演 14:50~15:50

p.23

佐藤 邦明(文部科学省 高等教育局 高等教育企画課 国際企画専門官)

「グローバル時代における大学教育の国際化を考える一政策的見地を踏まえて」

パネルディスカッション 15:55~18:25

p.24~26

報告

報告1 芦沢 真五(東洋大学 国際地域学部 教授)

「現代社会における留学の意義とインパクトを再考する

p.24

ー多様化する海外学習体験と学習成果分析ー

報告2 落合 一泰(一橋大学 大学院社会学研究科 教授)

「教育の国際化と学生の国際化ーチューニングと学外学修の試みー」

p.25

報告3 飯吉 透(京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授/センター長)

「主体的な学びの喚起と持続のためのオープンな学習環境を考える

p.26

ー21世紀のジョン万次郎をどう育てるかー

指定討論

佐藤 邦明(文部科学省 高等教育局 高等教育企画課 国際企画専門官)

ディスカッション

司 会 田口 真奈(京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授)

松下 佳代(京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授)

趣 旨

昨今、大学教育改革に対する社会からの期待は、ますます大きくなってきています。高等教育も含めた様々な分野において、グローバルとローカルのバランスを取る複雑さと困難さが増しており、それに伴い、日本の多くの大学も「教育の国際化対応」や「世界的に活躍できる人材の育成」に喫緊の課題として取り組み始めています。

一方で、海外留学する学生が減少し、「若者の内向き化」が指摘されています。しかし、教育の国際化をめざす正課の授業や正課外の活動は、学生の主体的な学びを促す機会にもなりうる可能性をもっています。

本シンポジウムでは、地方行政・国政の両方の立場から日本の大学教育の国際化を先導されてきた文部科学省の佐藤邦明国際企画専門官に、基調講演をお願いしました。グローバル化に対応する日本ならびに世界の政策動向をご紹介いただくとともに、国際教養大学の立ち上げ、G30、SGUなどの立案に関わられたご経験をふまえて、大学教育の国際化への期待をこめたご講演をいただきます。

続くパネルディスカッションでは、まず、正課外での取組の優れた事例として、海外学習体験を牽引してこられた東洋大学の芦沢真五教授に、留学の意義やインパクトをデータに基づいてご紹介いただきます。次いで、グローバル化に対応したカリキュラム改革をどのように行っていくのか、正課の授業と正課外の活動をどのようにつないでいくのかといった点から、一橋大学の落合一泰教授より、チューニングをはじめとする一橋大学の取組についてお話しいたします。

最後に、学びの場がますます多様化し、教育のオープン化が進む現状を踏まえ、学生の主体的な学びを喚起する学習環境とはどのようなものなのかについて、ICTがもたらす現在の学習環境に詳しい本センターの飯吉センター長が提案を行います。

「国際化」という観点から、日本の大学教育改革における重点的な取組とその可能性や課題をあらためて広く捉え直しつつ、深く考える機会としたいと思います。

3月14日(土) 2日目

個人研究口頭発表 9:00~11:00

総合館北棟

部会8 【会場：総合館北棟 共北25】

反転学習の効果検証に関する実証的研究—大学生を対象として— p.184

本田周二(島根大学)・森 朋子(関西大学)・溝上慎一(京都大学)

教養・文系科目における反転授業の実践—「大学で学ぶ世界史」のデザインと効果— p.186

鹿住大助(島根大学)

アクティブラーニングとしての反転授業の効果を検討する実証的研究 p.188

矢野浩二郎(大阪工業大学)・森 朋子(関西大学)

大学人文科学系言語学講義への反転学習導入に関する考察 p.190

七田麻美子(総合研究大学院大学)・本田周二(島根大学)・小林亜希子(島根大学)

森 朋子(関西大学)

新入生を対象とした英語科目における反転授業の導入とその分析結果について p.192

奥田阿子(長崎大学)・三保紀裕(京都学園大学)・森 朋子(関西大学)

工学系演習授業における「反転授業」の試み p.194

長谷川紀幸(横浜国立大学)

部会9 【会場：総合館北棟 共北26】

ループリックの意義と課題—ループリックの批判的検討をふまえて— p.196

松下佳代(京都大学)・畑野 快(大阪府立大学)・斎藤有吾(京都大学)

浅井健介(京都大学)・河合道雄(京都大学)・周 静(京都大学)・田中正之(京都大学)

丁 愛美(京都大学)・Nikan Sadehvandi(京都大学)・蒲 雲菲(京都大学)

星野俊樹(京都大学)・松井桃子(京都大学)・長沼祥太郎(京都大学)

パフォーマンス評価における信頼性指標 p.198

斎藤有吾(京都大学)

キャリアデザインプログラムにおける「コンピテンシー評価指標」の開発事例 p.200

霜島美和(お茶の水女子大学)・望月由起(お茶の水女子大学)

PBLにおける実践評価と教育評価—立命館大学 OAK プロジェクトの試み— p.202

山口洋典(立命館大学)・堀江未来(立命館大学)・桑名 恵(立命館大学)

坂田謙司(立命館大学)・河井 亨(立命館大学)

プロジェクト型学習の授業設計における評価法の検討 p.204

上田勇仁(株式会社デジタルエデュケーショナルサポート)・合田美子(熊本大学)

ループリックを通じた学生の学びに関する探索的検討 p.206

山田嘉徳(関西大学)・森 朋子(関西大学)・岩崎千晶(関西大学)

田中俊也(関西大学)

部会10 【会場：総合館北棟 共北27】

2種類のPBLとリーダーシップ教育の実践 p.208

長谷川元洋(金城学院大学)・時岡 新(金城学院大学)・中村岳穂(金城学院大学)

岩崎公弥子(金城学院大学)・畠山正人(金城学院大学)・河野裕康(金城学院大学)

次ページに続く 

3月14日(土) 2日目

授業 SNS を用いた協調学習統合型講義の試み	p.210
田中浩朗 (東京電機大学)	
安寧の都市ユニットにおける対話に基づく講義とその評価に関する試み	p.212
安東直紀 (京都大学)・小山真紀 (京都大学)・土井 勉 (京都大学)	
アクティブラーニングに「声」のワークを導入する試み	
ー「主体性」「やる気」の学習効果の向上を目指してー	p.214
山岡三子 (名古屋短期大学)	
多文化多言語 PBL の成果と課題	p.216
梶本歩美 (国際教養大学)	
日本語コミュニケーション能力の養成に対するジグソー法の有効性	
ー中国の大学の「精読」科目における実践を通じてー	p.218
周 静 (京都大学)・松下佳代 (京都大学)	

部会 11 【会場：総合館北棟 共北32】

Content-Based Instruction と協調学習を組み合わせた、情報系学生向け英語教育の定量的評価	
矢野浩二郎 (大阪工業大学)	p.220
国際通用語としての英語における母音の音質と明瞭性の関係	p.222
ジョージ・オニール (新潟大学)	
外部試験を活用した教養英語カリキュラムの効果的運用	p.224
高瀬祐子 (静岡大学)・松野和子 (静岡大学)・小早川真由美 (文部科学省)	
小町将之 (静岡大学)	
英語教員のためのポートフォリオオーググローバル人材育成に向けてー	p.226
村上裕美 (関西外国語大学短期大学部)	
留学の事前指導と事後指導の一環としての英語による大学の授業	p.228
山川健一 (安田女子大学)・平本哲嗣 (安田女子大学)・松岡博信 (安田女子大学)	
三宅英文 (安田女子大学)	

部会 12 【会場：総合館北棟 共北37】

国家政策としての障害学生支援一条約と法制定過程ー	p.230
青野 透 (金沢大学)	
生活と科学 演習 2010 年度 教育実践報告ーF. ナイチンゲール著『看護覚え書』に基づいた「生活の体系像」を学生の頭脳に形成し、健康的生活を主体的に創り出すセルフケア能力を育成するー	
小河一敏 (宮崎県立看護大学)	p.232
ポジティブ心理学理論に基づくメンタルヘルス教育プログラムの紹介	p.234
須賀英道 (龍谷大学)	
インターネット上の共有ドライブを利用した学習記録の試み	
ー留学生を対象とした大学講義参加を支援する日本語授業からー	p.236
福島智子 (桜美林大学)・三宅若菜 (桜美林大学)	

3月14日(土) 2日目

部会 13【会場：総合館北棟 共北38】

- 初年次教育におけるデジタル・ストーリーテリングを用いたキャリア教育実践 **p.238**
 坂本 旬 (法政大学)
- 大人数で取り組めるキャリア教育の授業を目指した実践報告(事例報告) **p.240**
 松坂暢浩 (山形大学)・小倉泰憲 (山形大学)・栗野武文 (山形大学)
- 大学1年生の汎用的/専門的/実務的資質能力の個人差と変化
 ー科目「キャリアデザイン」におけるアクティブ・ラーニングの課題ー **p.242**
 坂井敬子 (静岡大学)・佐藤龍子 (静岡大学)・酒井徹也 (静岡大学)
 須藤 智 (静岡大学)
- キャリア教育プログラム初年度の省察と2年目以降の展望 **p.244**
 大黒章子 (明海大学)・東 香織 (明海大学)・市川雅也 (株式会社インテリジェンス)
 高橋南海子 (明星大学)
- 大学生のキャリア探索を促進する友人との関わり方 **p.246**
 田中正之 (京都大学)
- キャリア教育におけるアクティブラーニング実施時の着眼点と工夫 **p.248**
 平野恵子 (文化放送キャリアパートナーズ)

部会 14【会場：総合館北棟 共北3A】

- 大学の世界展開力強化事業「強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点」における
 地域連携を取り入れたワークショップ型授業の試み **p.250**
 小山真紀 (京都大学)・大友 有 (京都大学)・四井早紀 (京都大学)
 樋口博紀 (京都市東山区役所)・藤森崇浩 (京都大学)・大道一步 (京都大学)
 清野純史 (京都大学)
- 学外者を巻き込んだ授業パラダイムのイノベーション
 ー学びの境界を越える授業を事例にしてー **p.252**
 筒井洋一 (京都精華大学)・大木誠一 (前神戸国際大学附属高校教員)
- 短大教育における地域企業との連携の可能性 **p.254**
 辰島裕美 (金沢星稜大学短期大学部)
- 地域資源としての休耕地を活用したフィールド教育の実践 **p.256**
 石井雅章 (神田外語大学)・古旗賢二 (城西大学)・末永啓一郎 (城西大学)
- 理系学生のための合宿型集中英語講義
 ー京都産業大学グローバル・サイエンス・コースにおける試みー **p.258**
 足立 薫 (京都産業大学)・桜井延子 (京都産業大学)・中村暢宏 (京都産業大学)

部会 15【会場：総合館北棟 共北28】

- 参加型・行動型アクティブラーニングの実践
 ー全学共通教育科目「地域情報発信論」を事例としてー **p.260**
 馬本 勉 (県立広島大学)・中瀬古 哲 (県立広島大学)・塩川満久 (県立広島大学)
 五條小枝子 (県立広島大学)

次ページに続く 

3月14日(土) 2日目

活動的で協同的で反省的な「読書コミュニティ」の創出 ー学生一人ひとりが想像の翼を広げる教養教育を目指してー	p.262
水野邦太郎(福岡県立大学)	
教養教育における参加型音楽ワークショップの展開(1)ーその効果と可能性ー	p.264
西田 治(長崎大学)	
学生の相互刺激を活用した主体的な学びを推進ー3つの共通教育科目における試みー	p.266
清水 亮(神戸学院大学)	
教員養成型PBL教育の課題と展望(XI)ー生活指導分野における対話型事例シナリオの開発ー	p.268
大日方真史(三重大学)・赤木和重(神戸大学)・大西宏明(三重大学)	
中西康雅(三重大学)・根津知佳子(三重大学)・前原裕樹(愛知大学)	
守山紗弥加(三重大学)・森脇健夫(三重大学)・山田康彦(三重大学)	
健康新聞を用いた省察力に関する実践報告	p.270
岡本浄実(京都文教大学)	

部会 16【会場：総合館北棟 共北31】

総合的スキル獲得を目指したメディア創造ワークショップにおける学生の学び	p.272
稲葉利江子(津田塾大学)・長濱 澄(早稲田大学)	
学生の主体的な学びを支援する仕組みづくりに向けてー学生へのヒアリング調査からー	p.274
千葉美保子(京都産業大学)・松井きょう子(京都産業大学)	
プロジェクトマネジメントラーニングにおける効率化のデメリット	p.276
奥本素子(総合研究大学院大学)	
学年・学部混合チームでのPBL型インターンシップにおける学び	p.278
宇賀田栄次(静岡大学)・須藤 智(静岡大学)・坂井敬子(静岡大学)	
佐藤龍子(静岡大学)	
ワークショップの企画・実施を通じたコミュニケーション教育の実践	p.280
望月俊男(専修大学)・安斎勇樹(東京大学)・佐藤慶一(専修大学)	
山田小百合(特定非営利活動法人Collable)・森 裕生(早稲田大学)	
行動型アクティブラーニングの実践ー「体育実技(海洋実習)」を事例としてー	p.282
塩川満久(県立広島大学)・中瀬古 哲(県立広島大学)・楠掘誠司(県立広島大学)	

部会 17【会場：総合館北棟 共北3B】

初年次教育のプロジェクト活動における「調べ学習」からの脱却(1)	
ー学生の立てる「問い」と「主張」の現状とその特徴ー	p.284
下村智子(三重大学)・守山紗弥加(三重大学)・益川優子(愛知学泉大学)	
大道一弘(早稲田大学)・中島 誠(三重大学)・中西良文(三重大学)	
長濱文与(三重大学)	
初年次教育のプロジェクト活動における「調べ学習」からの脱却(2)	
ー「主張」の構築をめざした指導上の工夫ー	p.286
守山紗弥加(三重大学)・下村智子(三重大学)・中島 誠(三重大学)	
長濱文与(三重大学)・中西良文(三重大学)	

3月14日(土) 2日目

保健医療学部における初年次学生に対する IPE (Interprofessional education) —————	p.288
富田美加 (茨城県立医療大学)・加納尚美 (茨城県立医療大学)	
吉良淳子 (茨城県立医療大学)・滝澤恵美 (茨城県立医療大学)	
齋藤さわ子 (茨城県立医療大学)・對間博之 (茨城県立医療大学)	
庄司俊之 (茨城県立医療大学)・馬場 健 (茨城県立医療大学)	
武島玲子 (茨城県立医療大学)・工藤典雄 (茨城県立医療大学)	
高大接続の課題を踏まえた初年次ライティング科目の指導法とその効果	
— 論証とパラグラフ・ライティングを柱に —————	p.290
薄井道正 (立命館大学)	
発展的なライティング教育のための初期段階での課題—TA としての経験をふりかえって—	p.292
井上達郎 (立命館大学)・神谷大匡 (立命館大学)・熊木優歩 (立命館大学)	
ピア・サポーターの育成・マネジメント—初年次支援を行うピア・サポート組織の実践報告—	p.294
奥田修子 (立命館大学)・土岐智賀子 (立命館大学)	

部会 18 【会場：総合館北棟 共北3C】

学生授業評価結果から見た看護学部生の「学び」の実態 —————	p.296
杉田由仁 (山梨県立大学)・吉澤千登勢 (山梨県立大学)・村松照美 (山梨県立大学)	
イメージを描くことによる授業評価アンケート—学生は授業の目標物を絵に描くか—	p.298
岡田大輔 (明石工業高等専門学校)	
授業連携によるクラスループリック作成過程の事例 —————	p.300
毛利美穂 (関西大学)・西浦真喜子 (関西大学)・小林至道 (関西大学)	
中澤 務 (関西大学)・森 朋子 (関西大学)	
日本人学生の海外学習体験を PAC 分析で可視化する —————	p.302
佐々木良造 (秋田大学)・尾沼玄也 (神田外語大学)	
大学資源の活用に向けたゲーミフィケーションの実践 —————	p.304
石田喜美 (常磐大学)・関 敦央 (常磐大学)・寺島哲平 (常磐大学)	

部会 19 【会場：総合館北棟 共北3D】

図画工作における ICT を活用した新たな活動「たからばこ作戦」の実践と小学校教員を目指す学生の教職教育の可能性について —————	p.306
鳥原正敏 (都留文科大学)・杉本光司 (都留文科大学)・舘山拓人 (都留文科大学)	
大輪知穂 (都留文科大学)	
外部開発教材を活用した推薦入学生に対する入学前 e ラーニング教育の効果 —————	p.308
澤口 隆 (東洋大学)・巽 靖昭 (東洋大学)・児玉俊介 (東洋大学)	
経済学基礎教育における e ラーニングの学力差改善効果 —————	p.310
上村一樹 (東洋大学)・児玉俊介 (東洋大学)・澤口 隆 (東洋大学)	
文科系学部における数理的教育の構築 —————	p.312
森 園子 (拓殖大学)・船倉武夫 (千葉科学大学)	
数学 e-Learning における PDCA サイクルの多面化について —————	p.314
亀田真澄 (山口東京理科大学)・宇田川 暢 (山口県立大学)	

次ページに続く 

3月14日（土） 2日目

主体的な学びを実現・支援する方策としての学内 ICT 環境改善と授業改善 ————— **p.316**

坂田信裕（獨協医科大学）・山下真幸（獨協医科大学）・上西秀和（獨協医科大学）

坂東宏和（獨協医科大学）

3月14日(土) 2日目

小講演 11:25~12:25

総合館北棟

障がいや難病を生きる人達との哲学対話

ーICTを活用したアクティブラーニングー ……………【会場：総合館北棟 共北27】

p.31

田坂 さつき（立正大学文学部哲学科 教授）

【司会】田中 一孝（京都大学高等教育研究開発推進センター 特定助教）

高等教育質保証のインパクトーFDから学習成果，IRへー ……………【会場：総合館北棟 共北28】

p.32

山田 剛史（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 副室長 / 准教授）

【司会】松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）

大学入試改革の新動向と課題

ー日本の大学入試風土と高大接続答申の狭間でー ……………【会場：総合館北棟 共北31】

p.33

大塚 雄作（独立行政法人大学入試センター 試験・研究副統括官 教授）

【司会】飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授 / センター長）

オープンエデュケーションによる大学教育改善

ー反転授業を導入する道内国立大学教養教育連携の事例からー ……【会場：総合館北棟 共北32】

p.34

重田 勝介（北海道大学高等教育推進機構教育支援部オープンエデュケーションセンター 准教授）

【司会】酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）

3月14日(土) 2日目

参加者企画セッション 13:30~16:00

総合館北棟

高難易度大学・学部1年生が求める英語授業と教員像

ー「異質性」の正統化と共有に向けてー ……【会場：総合館北棟 共北3B】

p.320

企画：金岡正夫（鹿児島大学）
 話題提供：金岡正夫（鹿児島大学）
 横山千晶（慶應義塾大学）
 横山彰三（宮崎大学）
 加藤千博（横浜市立大学）
 指定討論：加藤千博（横浜市立大学）
 司会：金岡正夫（鹿児島大学）

学生とともに授業を創ろう ……【会場：総合館北棟 共北26】

p.322

企画：木野 茂（立命館大学）・長谷川 伸（関西大学）
 和賀 崇（岡山大学）・筒井洋一（京都精華大学）
 話題提供：木野 茂（立命館大学）
 長谷川 伸（関西大学）
 和賀 崇（岡山大学）
 筒井洋一（京都精華大学）
 司会：木野 茂（立命館大学）

ディープ・アクティブラーニング

ー反転授業とリーダーシップ教育を事例としてー ……【会場：総合館北棟 共北27】

p.324

企画：松下佳代（京都大学）・森 朋子（関西大学）
 話題提供：松下佳代（京都大学）
 日向野幹也（立教大学）
 森 朋子（関西大学）
 指定討論：中西良文（三重大学）
 司会：松下佳代（京都大学）・森 朋子（関西大学）

高等教育機関に本当に必要な「学生の声と協力」とは何か

ー学生・教員・職員の協働による大学の質向上は実現可能かー ……【会場：総合館北棟 共北28】

p.326

企画：川上忠重（法政大学）・上野誠也（横浜国立大学）・白鳥成彦（嘉悦大学）
 榊原暢久（芝浦工業大学）・高橋 和（名城大学）・曾根健吾（東洋大学）
 話題提供：沖 裕貴（立命館大学）
 後藤裕哉（日本大学）
 杉原真晃（聖心女子大学）
 加藤雄一郎（立命館大学）
 指定討論：橋本 勝（富山大学）
 土持ゲーリー法一（帝京大学）
 司会：川上忠重（法政大学）

3月14日(土) 2日目

教員養成型PBL教育の展開と検討

ーPBL事例シナリオ教育を焦点にー……………【会場：総合館北棟 共北31】

p.328

企画：山田康彦（三重大学）
 話題提供：根津知佳子（三重大学）
 森脇健夫（三重大学）
 赤木和重（神戸大学）
 前原裕樹（愛知大学）
 指定討論：吉田香奈（広島大学）
 井上史子（帝京大学）
 司会：山田康彦（三重大学）

「日本」を題材とした協働学習の仕掛け……………【会場：総合館北棟 共北32】

p.330

企画：吉野 文（千葉大学）
 話題提供：和田 健（千葉大学）
 西住奏子（千葉大学）
 小林聡子（千葉大学）
 ガイタニディス ヤニス（千葉大学）
 司会：吉野 文（千葉大学）

日本における教養教育の史的展開……………【会場：総合館北棟 共北37】

p.332

企画：児玉英明（京都三大学教養教育研究・推進機構）
 報告者：児玉英明（京都三大学教養教育研究・推進機構）
 橋爪孝夫（山形大学）
 指定討論：林 哲介（京都三大学教養教育研究・推進機構）
 司会：児玉英明（京都三大学教養教育研究・推進機構）

「事件は本省の会議室ではなく、現場（授業）で起きている！」

ー「守・離・破」で臨む大学教養教育難題解決「踊る」ラウンドテーブル・ワークショップー
 ……………【会場：総合館北棟 共北38】

p.334

企画：清水 亮（神戸学院大学）
 話題提供：上野寛子（明治学院大学）
 大嶽龍一（日本大学）
 小田隆治（山形大学）
 佐藤良明（東京大学名誉教授）
 司会：清水 亮（神戸学院大学）

3月14日(土) 2日目

体験を社会の中に文脈化して学びの意欲につなげる

ー早稲田大学「体験の言語化」科目の開発ー ……………【会場：総合館北棟 共北25】

p.336

企画：岩井雪乃（早稲田大学）・兵藤智佳（早稲田大学）

話題提供：岩井雪乃（早稲田大学）

兵藤智佳（早稲田大学）

本間知佐子（早稲田大学）

和栗百恵（福岡女子大学）

河井 亨（立命館大学）

司 会：岩井雪乃（早稲田大学）

留学生と日本人学生がともに学ぶ多文化交流型授業の実践 ……………【会場：総合館北棟 共北3C】

p.338

企画：小河原義朗（北海道大学）・青木麻衣子（北海道大学）

話題提供：小河原義朗（北海道大学）

青木麻衣子（北海道大学）

鄭 惠先（北海道大学）

指定討論：徳井厚子（信州大学）

Gehrtz 三隅友子（徳島大学）

司 会：小河原義朗（北海道大学）

様々な内容、目的を持った Study abroad の広がりそこから得られる学び、課題について

……………【会場：総合館北棟 共北3D】

p.340

企画：保崎則雄（早稲田大学）

話題提供：長濱 澄（早稲田大学）

土性香那実（早稲田大学）

若山修也（早稲田大学）

藤城晴佳（早稲田大学）

指定討論：保崎則雄（早稲田大学）

司 会：保崎則雄（早稲田大学）

IV-4. FD ネットワーク代表者会議（JFDN）

1. 第7回会議の目的と概要

FD ネットワーク代表者会議（JFDN）は、第7回目となる。

2007年に大学設置基準の改正が行われFDが義務化され現在に至るまで、国公立立合わせてほぼ全ての大学が何らかの形でFDを実施しているという状況に至っており、その意味で、日本におけるFDは制度的には既に一定の普及と定着が図られたと言える。

しかしその一方で、2008年の学士課程答申や2012年の質的転換答申などでも繰り返して指摘されているように、現在のFDの取組は我が国の高等教育全体としての教員の教育力向上という成果に十分に繋がってはおらず、「個々の教員のニーズに応じた日常的な教育改善促進のための支援」、「教員同士の互助的な授業・教育力改善」、「教員の教育面での業績評価と報賞等のインセンティブ向上」、「教育の質保証のための仕組みやFDを効果的に実施する体制の確立」など、さらなるFDの実質化に向けた課題が山積しているのが現状である。

このような各大学におけるFDの制度的な形骸化による行き詰まり感と実質化に関する課題は、国内の多くのFDネットワークでも共有されているのではないだろうか。一方でFDに特化した助成的支援は、国家レベルでも各機関レベルでも縮小傾向にあり、そのような中で、これまでの一次的・線的なFDを延長していくことは、今後さらに困難になることが予想される。

そこで本年度のFDネットワーク代表者会議では、「先進的なFDや教育改善に関するリソース・知見・情報の共有」や「これからの新たなFDの姿や形の模索」が、各FDネットワークさらにはFDネットワーク間で、これから先どのように進められるべきかについて議論することをその目的とした。

まず、文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学改革推進室 室長の猪股志野氏より、「大学教育の質的転換と今後のFD」と題して講演をいただいたのち、昼食をはさみながら活発な議論が行われた。次いで、各FDネットワークの現状と課題を共有した上で、「新たな分散的（distributed）FDと多元的（multi-dimensional）FDネットワークのあり方」を共通テーマとして議論が交わされた。

2. 会議日程とプログラム

2014年9月12日（金）11時～17時、京都大学吉田南1号館106室にて開催された。

プログラム	時間	内容
受付開始	10:30	(吉田南1号館 106室)
開会挨拶	11:00 ～ 11:10	開会挨拶：飯吉 透 (京都大学高等教育研究開発推進センター長)

第 1 部	11:10 ～ 11:40	講演「大学教育の質的転換と今後の F D」 猪股 志野 （文部科学省）
	11:40 ～ 12:45	ディスカッション with ランチ
休憩		
第 2 部	13:00 ～ 15:45	FDネットワークおよび教育関係共同利用拠点の 現状と課題 〔発表・質疑 各10分以内、交代2分〕 1. 田中 岳 （九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク： Q-Links・九州大学） 「かたらしてえ Q-Links 2014」 2. 山田 剛史 （四国地区教職員能力開発ネットワーク （SPOD）／教職員能力開発拠点・愛媛大学） 「SPOD および共同利用拠点における 教職員能力開発の展開と成果」 3. 鹿住 大助 （山陰地区FD連絡協議会および山陰地域 ソーシャルラーニングセンター・島根大学） 「大学間連携共同教育推進事業と FD・SD の展開： 山陰地域・大学間連携ソーシャルラーニング事業の取り組み」 4. 山本 美奈 （大学コンソーシアム京都） 「大学コンソーシアム京都 第 4 ステージの課題 ―新たな分 散的 FD と多元的 FD ネットワークのあり方の視点から―」 5. 安岡 高志 （全国私立大学FD連携フォーラム・立命館大学） 「全国私立大学 F D 連携フォーラムの活動報告 ―加盟大学が 3 3 校になりました―」 6. 飯吉 透 （関西地区FD連絡協議会・京都大学） 「教育関係共同利用拠点の今後 ― 関西地区 FD 連絡協議会の行方―」 （休憩） 7. 夏目 達也 （FD・SD教育改善支援拠点・名古屋大学） 「名古屋大学『FD・SD 教育改善支援拠点』の今後」 8. 丹羽 雅之 （医学教育共同利用拠点・岐阜大学） 「医療者教育フェローシップの構築：体系的 F D・メンタリン グ・研究支援を融合した新たな FD の全国展開」 9. 杉原 一臣 （福井県学習コミュニティ推進協議会 （フレックス）・福井工業大学） 「フレックスにおける相互研修型 FD の実践」

		10. 杉森 公一（大学コンソーシアム石川・金沢大学） 「いしかわの大学人養成を目指す FD・SD 共同プロジェクト、 若手教員授業研究会の試み」 11. 鈴木 友子（看護学教育研究共同利用拠点・千葉大学） 「看護学教育研究共同利用拠点における現況と課題」 12. 羽田 貴史（国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点・東北大学） 「循環的大学教育開発の構築：ローカルリズムと リメディアルモデルを乗り越える東北大学からの提言」
休憩		
第3部	16:00 ～ 17:00	新たな分散的（distributed）FDと多元的（multi-dimensional）FDネットワークのあり方について コメント：各拠点からの報告を聞いて〔10分程度〕 猪股 志野（文部科学省） 全体ディスカッション
	17:00	記念撮影・解散

3. 参加者

文部科学省

猪股 志野（文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学改革推進室 室長）

九州地域大学教育改善 FD・SD ネットワーク：Q-Links

田中 岳（九州大学 基幹教育院 教育企画開発部 准教授）

四国地区教職員能力開発ネットワーク（SPOD）および教職員能力開発拠点

山田 剛史（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長／准教授）

山陰地区 FD 連絡協議会および山陰地域ソーシャルラーニングセンター

鹿住 大助（島根大学 教育・学生支援機構教育開発センター 准教授）

大学コンソーシアム京都

山本 美奈（大学コンソーシアム京都 副事務局長（FD・SD 担当））

川面 きよ（大学コンソーシアム京都 教育開発事業部 専門研究員）

全国私立大学 FD 連携フォーラム

安岡 高志（立命館大学 教育開発推進機構 教授）

FD・SD 教育改善支援拠点

夏目 達也（名古屋大学 高等教育研究センター 教授）

医学教育共同利用拠点

丹羽 雅之（岐阜大学 医学教育開発研究センター 教授）

福井県学習コミュニティ推進協議会（フレックス）

杉原 一臣（福井工業大学 工学部 教授）

大学コンソーシアム石川

杉森 公一（金沢大学 大学教育開発・支援センター 准教授）

看護学教育研究共同利用拠点

鈴木 友子（千葉大学 大学院看護学研究科 附属看護実践研究指導センター

看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の

促進プロジェクト 特任助教）

国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点

羽田 貴史（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター長／教授）

齋藤 ゆう（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター 事務補佐員）

稲田 ゆき乃（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター

コーディネーター）

相互研修型FD 共同利用拠点

飯吉 透（京都大学 高等教育研究開発推進センター センター長／教授）

松下 佳代（同 教授）

溝上 慎一（同 教授）

田口 真奈（同 准教授）

酒井 博之（同 准教授）

田中 一孝（同 特定助教）

岡本 雅子（同 特定研究員）



FD ネットワーク代表者会議（JFDN）第7回会議 集合写真

（田口 真奈、飯吉 透）

大学教育の質的転換と今後のFD

FDネットワーク代表者会議
Japan Faculty Development Network (JFDN)
第7回会合

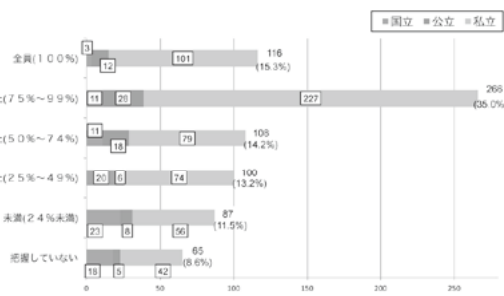
平成26年9月12日（金）

文部科学省高等教育局
大学振興課大学改革推進室長
猪股 志野

文部科学省

FDの実施状況

○大学における、FDへの専任教員の参加状況（平成23年度）



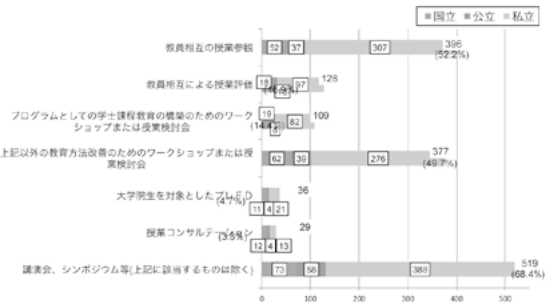
（出典）文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」平成23年度実績

1

文部科学省

FDの実施状況

○大学において実施している、FDの具体的な内容（平成23年度）



（出典）文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」平成23年度実績

2

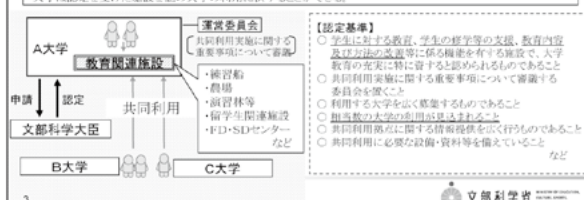
文部科学省

教育関係共同利用拠点制度

【制度の趣旨】
多様化する社会と学生のニーズに応えるべく、各大学において、それぞれの教育理念に基づいて機能分化を図り、個性化・特色化を進めながら教育研究活動を展開していくことが重要。
質の高い教育を提供していくためには、個々の大学の取組だけでは限界があるため、他大学との連携を強化し、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等の有効活用を推進することにより、大学教育全体として多様な高品質な教育を展開していくことが必要不可欠。

大学の教育関係施設の共同利用の促進を図るための制度を創設し「教育関係共同利用拠点」。
2年以内より施行。大学間連携を促進取組を推進。
※「教育関係施設」とは、大学が所有・管理する施設（建物・設備）を指す。また、大学が所有・管理する施設（建物・設備）を指す。また、大学が所有・管理する施設（建物・設備）を指す。

【制度の概要】
大学における教育に係る施設で、当該施設が大学教育の充実に特に資するものについて、大学から申請を受けた後、審査の上で、文部科学大臣が教育関係共同利用拠点として認定。
大学は認定を受けた施設を他の大学の利用に供することができる。



3

文部科学省

教育関係共同利用拠点制度が求めたもの（平成26年度認定）

○公募通知における「留意事項」の見直し

その1. 構築されたいFDモデルの明確化

- ① 教員として必須の基礎的・共通的なFD
 - 授業設計、授業運営、学生指導、研究倫理教育等
- ② 教員のキャリア段階別のFD
 - 大学院生、採用直後(新任)、昇任者、部局長、執行役員等
- ③ 教員の専門分野別のFD

⇒ 自大学・他大学において、優良なFDツール・コンテンツの開発・発信
⇒ 全国の大学で活用できるよう、多様な学生の状況(学力等)に対応

我が国のFDの模範となり、継続的に活用される「拠点」への期待

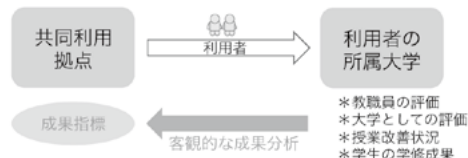
4

文部科学省

教育関係共同利用拠点制度が求めたもの（平成26年度認定）

○公募通知における「留意事項」の見直し

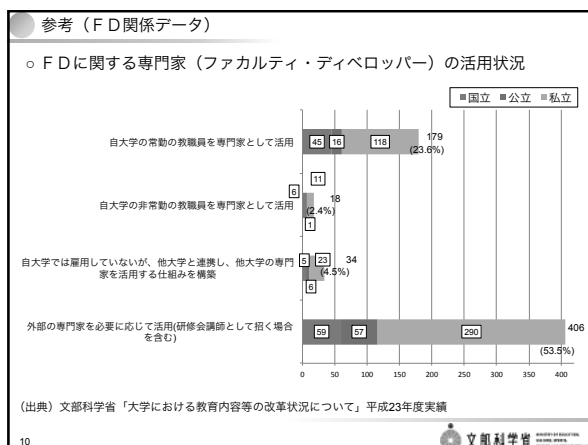
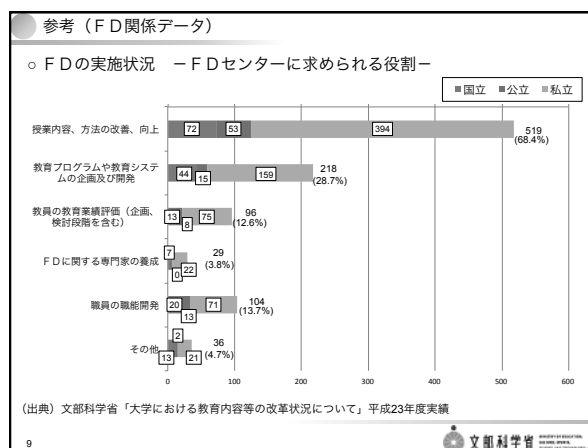
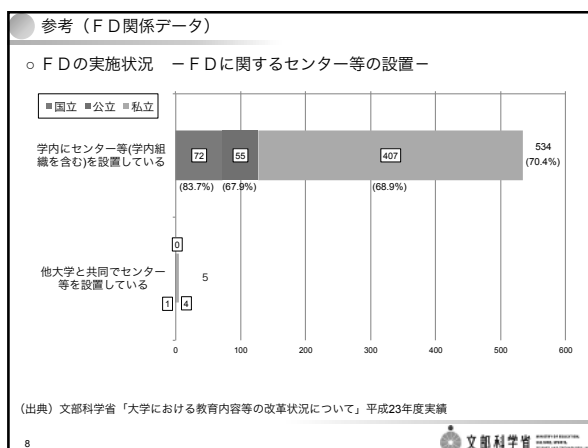
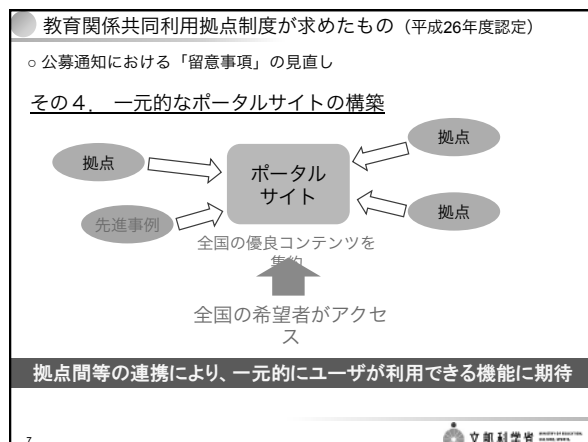
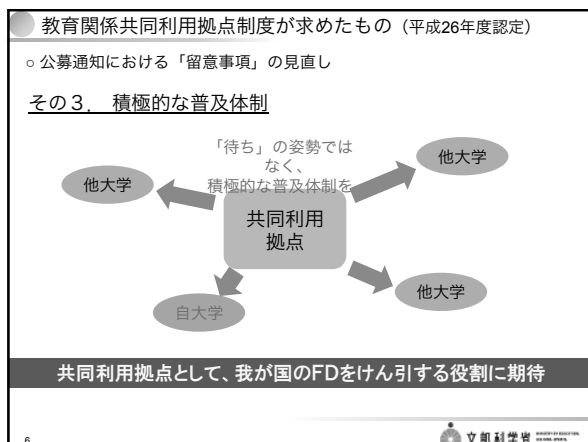
その2. 客観的な成果分析手法



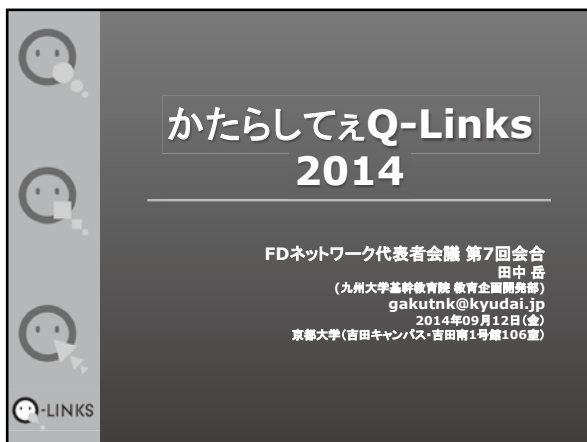
共同利用拠点として、常に外部の評価を改善に活かす仕組みを

5

文部科学省



御清聴ありがとうございました



5. 課題

九州地域におけるFD・SD活動の核になりたい
→みんなから『Q-Links 知ってるよ』と呼ばれるようになるだろうか(期待と不安)

『かたらしえてQ-Links』FDネットワーク代表者会議
第2回会合
田中 岳(九州大学教育改革企画支援室)
2009年09月09日芝蘭会館別館(国際交流会館),
京都大学

Q-Links
と関わった人たち
2009-2013

Q-Lab
Q-place
Q-caravan

Q-conference
会館・Working Group

total
3310

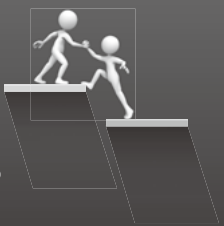
5 years of Q-Links

これから

2014/07/31 任意団体へ
➢あらためて賛同校の申請

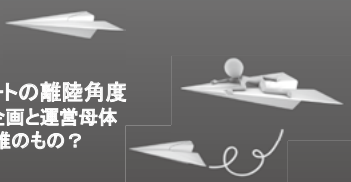
➢総会
2014/12/05

➢Q-conference2014
2014/12/06 薬城大(熊本)



課題

今年度、再スタートの離陸角度
➢事業実施の企画と運営母体
➢Q-Linksは誰のもの？



ありがとうございました。がんばります！

Q-Links でお待ち申し上げております。



**SPODおよび共同利用拠点における
教職員能力開発の展開と成果**

山田 剛史 / Tsuyoshi YAMADA, Ph.D.
愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 副室長／准教授
(四国地区教職員能力開発ネットワーク(SPOD)／教職員能力開発拠点)

E-mail: yamada@ehime-u.ac.jp
HP: http://yamatuco.com

愛媛大学

FDネットワーク代表者会議第7回会合＠京都大学
2014年9月12日(金) 11:00-17:00

今日の内容

1. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)
2. 教職員能力開発拠点

えみか

愛媛大学

1. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)

愛媛大学

SPODの概要

SPODは、四国地区の高等教育機関が連携してネットワーク事業を展開することにより、域内のFD／SD事業の効率化、高度化、実質化を行うとともに、学生の豊かな学びと成長を支援する実践的の力量をもった高等教育のプロフェッショナルを輩出し、教育の質の保証を図ることを目的に平成20年10月に設立。

- ・四国地区の全ての高等教育機関33校が加盟
- ・地域ネットワークとして、FD・SD大学間連携のモデル(平成20年度「文部科学省戦略的大学連携支援事業(通称、戦略GP)」に採択)
- ・平成23年度から自主運営体制により事業を継続
- ・愛媛大学が代表校、及び事務局(教育企画課)を設置

愛媛大学

SPOD加盟校

学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的の力量をもった
高等教育のプロフェッショナルの輩出

愛媛…12校

■大学④
愛媛大学(国)
愛媛県立産業技術大学校(公)
愛媛大学工学部(私)
愛媛大学経済学部(私)
愛媛大学文学部(私)
愛媛大学法学部(私)
愛媛大学医学部(私)
愛媛大学歯学部(私)
愛媛大学薬学部(私)
愛媛大学看護学部(私)
愛媛大学獣医学部(私)

■短期大学②
愛媛大学短期大学部(国)
愛媛大学短期大学部(私)

■高等専門学校①
愛媛大学高等専門学校(国)

香川…7校

■大学④
香川大学(国)
香川大学工学部(私)
香川大学経済学部(私)
香川大学文学部(私)
香川大学法学部(私)
香川大学医学部(私)
香川大学歯学部(私)

■短期大学②
香川大学短期大学部(国)
香川大学短期大学部(私)

■高等専門学校①
香川大学高等専門学校(国)

ネットワーク加盟校の構成
四国地区の全高等教育機関が加盟
ネットワーク参加校数 33校
(大学16、短期大学12、高等専門学校5)

愛媛大学

SPODのネットワーク体制

研究開発での協働
国立教育政策研究所

成果の情報発信・連携
全国他地区のFD・SDネットワーク等

ネットワークコア校

愛媛県内加盟校 ← 愛媛大学(教育企画室) → 香川県内加盟校
高知県内加盟校 ← 高知大学(総合教育センター) → 徳島県内加盟校
徳島大学(大学開発実践センター)

(研究開発、人材育成を担う4大学でネットワークコアを構成)
ネットワークコア運営協議会(月1回程度開催)

その他ネットワーク加盟校

研究員の派遣、研修講師の依頼、各種研修プログラムへの参加、コンテンツ・コンサルテーションの利用、併せて、コア校が開発したプログラムの共同実行、共同実施等に参加。

愛媛大学

SPODの主な事業内容（FD）

FD（ファカルティ・ディベロップメント）における活動

■ F-1：FDerの養成

(a) FDer（ファカルティ・ディベロッパー）養成のための体系的プログラム開発、資格要件の検討
 学内教育改善の担い手となる実践的力を培得
 (b) FDer養成のための研究員及びインターンシップの受入
 学内でFDを担当する現職教員のほか、FDerを目指す大学院生、ポスドク等を対象

■ F-2：新任教員、大学院生、ポスドク向け標準的（ブレ）FDプログラムの開発、実施

（TAプログラム（附属別、専門分野別）を含む）
 教員としてのキャリアパスの早期において基礎的な内容を学習

■ F-3：各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発、実施

現職教員向けFDプログラムの体系化（個別アドバイスも含む）
 ※F-1～3については、本取組の連携・協働機関である国立教育政策研究所高等教育研究部と協力の上、全国レベルでのプログラム開発を推進。

■ F-4：教育業績記録（ティーチング・ポートフォリオ）の開発

教員の教育業績の可視化。米国での導入事例を参考に検討

SPODの主な事業内容（SD）

SD（スタッフ・ディベロップメント）における活動

■ S-1：SDプログラム（附属別、専門分野別）の開発、実施

(a) 経営者、管理者養成プログラムの開発、実施
 意思決定、企画立案、予算策定、危機管理、部下統率 等
 (b) 専門職養成プログラムの開発、実施
 例えば経営情報分析、広報や渉外、学生支援、入学支援 等
 (c) 次世代リーダー養成プログラムの開設、実施
 選抜された若手職員の企画立案能力養成、ネットワーク化

■ S-2：職員業績記録（スタッフ・ポートフォリオ）の開発

職員の職歴や業績の可視化。段階的キャリアアップ等への利用

■ S-3：職員キャリアアップサポートの実施

（キャリア形成に係るアドバイス等のほか、人事交流の紹介・斡旋など）
 ※S-1、2で行う取組をより実質化していくための 方策
 国公立大学間での職員人事交流 等

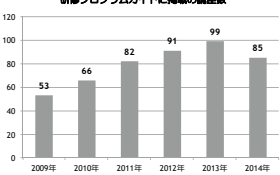
取組例1：統一ガイドブックの作成とプログラムの共有

SPOD内で開催され、かつ加盟校の参加可能なFD／SDプログラムを網羅的に掲載。加盟校の全教職員約7,000名に配付。希望するプログラムを探して直接申込みが可能となり、平成25年度はSPOD加盟校の教職員を中心に、延べ2,300名以上の参加を得た。

また、参加者の約90％から参加したプログラムについて「有意義又は満足」との回答を得た。



研修プログラムガイドに掲載の掲載数



取組例2：SPODフォーラムの実施

大学等の教職員の能力開発に役立つ多種多様なFD／SDプログラム及び組織を超えた意義ある相互交流・関係づくりを提供することを目的に、あらゆる立場の教職員が、その場でスキルアップにつながるような実践的なプログラムを3～4日間で集中的に提供。

平成21年度から毎年開催。加盟校教職員を中心に、500名（延べ1,000名）程度が参加。40を超えるセミナーを提供している。アンケートでも、高い評価を得ている（満足度約98％）。

<SPODフォーラム2013@愛媛大学>
 平成25年8月20日（火）～23日（金）
 全42のセミナーを開講し、加盟校教職員を中心に、全国から560名（延べ1,538名）が参加。



SPODフォーラム2014は高知大学で開催しました
 【日時】 H26.8.27～8.29（3日間）

参加者428名
 （速報値）

取組例2：SPODフォーラムの実施（事後アンケートの一部）

SPODフォーラム2013事後アンケート結果（N=226/40.3％）

■ ① そう思う ■ ② どちらかといえばそう思う ■ ③ どちらかといえばそう思わない ■ ④ そう思わない

	0%	20%	40%	60%	80%	100%
Q1.SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった		52.0%		46.2%		1.0%
Q2.所属組織を超えて人脈を広げることができた		24.0%		52.9%		2.2%
Q3.自分に必要な知識やスキルを身につけることができた		35.4%		59.3%		5.0%
Q4.業務や教育に対する意識や考え方が変わった		25.7%		58.6%		0.5%
Q5.業務や教育に積極的に取り組んでいきたいと思うようになった		42.4%		53.6%		4.0%
Q6.フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や教育現場で実際に活用している		27.6%		53.8%		2.7%
Q7.フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や他の教員に伝達している		19.5%		46.2%		8.6%
Q8.今後もフォーラムをはじめ、SPODが提供するプログラムに参加したい		53.2%		42.3%		4.5%

取組例3：調査・研究プロジェクトの設置

SPOD導入のインパクトの検証および今後のFD・SDニーズの発掘。研究面での成果の発信などを主たる目的として、2011年11月に「調査・研究プロジェクト」を設置。現在、以下4つのWGが稼働中。



「SPOD将来構想WG」を立ち上げ、中長期的な方向性について協議開始

2. 教職員能力開発拠点

拠点事業の概要

■文部科学大臣より教育関係共同利用拠点「教職員能力開発拠点」として認定

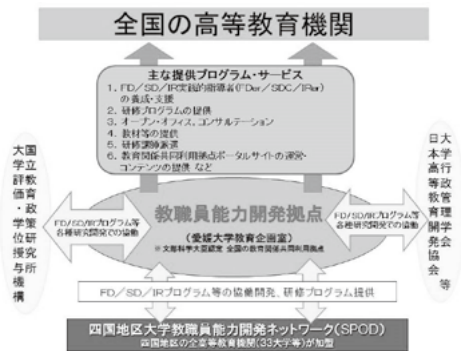
教職員能力開発拠点は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク等との連携で開発した、FD/SDプログラムを有効活用するための実施体制を、スタッフやプログラム等との充実により確立・強化し、全国の教育関係共同利用拠点として、大学等の教育力向上を図る。

(申請書より抜粋)

- ◎認定施設名：愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室
- ◎認定施設の種類：大学の教職員組織的な研修等の実施機関
- ◎認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日（5年間）
- ◎代表者名：小林 直人（教育・学生支援機構副構長 教育企画室長）
- ◎特記事項：四国地区の中核的拠点としての活動を期待

⇒再認定を受け、事業を継続（平成27年4月～平成32年3月）

主な事業内容と連携体制



拠点の主な事業内容と成果（平成25年度）

- ①研修プログラムの提供（計27プログラム，1004名，満足度97%）
②オープン・オフィス（訪問対応）（計20機関）

地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	その他	合計
訪問数	2	1	8	3	4	1	0	1	0	20

- ③教材等の提供（eラーニング教材へのアクセス数223件）
④講師派遣（計72機関）

地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	その他	合計
派遣数	0	5	13	5	11	5	27	6	0	72

- ⑤FD／SD実践的指導者
(FDeR, SDコーディネーター)の支援・育成
⑥その他、教職員能力開発に関する事業
(コンサルテーション、テニユア・トラック制度など)

FD/SD/IR実践的指導者の養成

[illegible]

FD/SD/IR実践的指導者の養成

教員能力開発院京都市事業

ファカルティ・ディベロッパー SDコーディネー

養成講座 in 京都



2013.10.4[金]／5[土]／6[日]

※ 場：キャンパスプラザ京都
 学芸部・教務部 402号室（京都市北区上田町1-10-10）
 主 催：京都市教育庁・学生支援推進教育政策課
 共 催：公設大学コンソーシアム京都市、日本高度教育院
（京大・京大入国）

教員能力開発院京都市事業

IRer養成講座 SDコーディネーター 養成講座 in 九州



2014.10.24[FRI] → 25[SAT]

※ 場：KKPコンファレンスセンター博多
（福岡県博多区）
 申込先：教務部・402号室（〒812-8501 京都市北区上田町1-10-10）
 主 催：教員能力開発院京都市事業
 （京大大学教育・学生支援推進教育政策課）



FDネットワーク代表者会議
第2部:FDネットワークおよび教育関係共同利用拠点の現状と課題
2014年9月12日(於:京都大学)

大学間連携共同教育推進事業と FD・SDの展開:

山陰地域・大学間連携ソーシャルラーニング事業の取り組み

鹿住大助
島根大学教育・学生支援機構教育開発センター



発表の構成

- ▶ 1. 大学間連携共同教育推進事業の概要
- ▶ 2. 連携事業の現在
- ▶ 3. 大学間連携とFD・SDの展開
- ▶ 4. FDネットワークの課題と展望



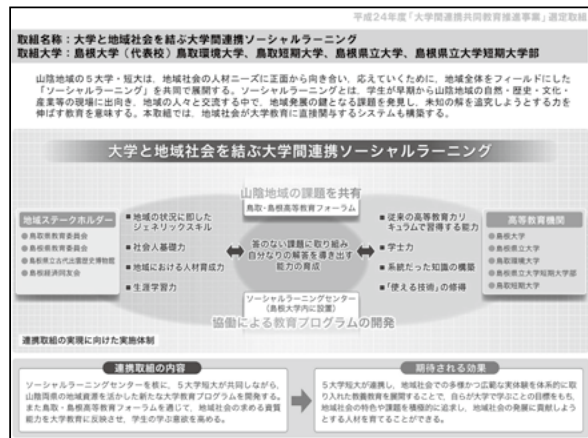
1. 大学間連携共同教育推進事業の概要

- ▶ 平成24年度採択(地域連携)
 - 「大学と地域社会を結ぶ大学間連携ソーシャルラーニング」
 - 取組大学: 島根大学(代表)、鳥取環境大学、鳥取短期大学、島根県立大学、島根県立大学短期大学部
 - 連携機関: 鳥取県教育委員会、島根県教育委員会、島根県立古代出雲歴史博物館、島根経済同友会

山陰コミュニティを背景とする大学間の教育資源・実証の連携



自然・産業・文化的資源をフィールドとし、
地域ステークホルダーが参画する学びの場



2. 連携事業の現在

- ▶ 連携校間での正課授業・正課外活動
 - 平成25年度: 正課授業34、正課外活動10
うち、連携校間で学生が相互に参加した授業と活動は16
主に、夏季・春季の集中授業、地域をフィールドにしたPBL
 - 平成25年度、参加学生数(延べ)2,472名
参加学生から、複数回参加するようなピアサポーターを育成
→ 交流イベント、授業補助、学生企画イベント
 - 連携校間での授業コンテンツの共有
LMS、SNSを使った事前・事後学習



3. 大学間連携とFD・SDの展開

- ▶ 山陰地区FD連絡協議会
 - 2009年～、出前FD研修会、FD行事などの共催
→ 大学間連携共同教育推進事業へ
- ▶ 「ソーシャルラーニング」による連携
 - 連携校からの要望
ソーシャルラーニング事業に関連したFD・SDの実施
※事業開始当初は、システムの操作方法など実践的内容
 - アクティブラーニングの評価と方法(2013.6.22)
ピアサポーターの育て方(2014.7.30)
e-Learningコンテンツの作成と公開(2014.8.6)
ルーブリック勉強会(予定)



4. FDネットワークの課題と展望

- ▶ 相互依存・協力関係からコンテンツを共有したFD・SDへ
 - ソーシャルラーニング事業による教育開発
 - 連携事業の進め方に関する課題意識の共有
 - 授業実践方法への関心共有
 - 共同教育事業に必要なFD企画への要望
- ▶ FDの地域社会との連携
 - 地域ステークホルダーが大学教育の一部に参画
 - 授業の企画に参加、調査対象者・フィールドの提供、
 - 授業のゲストスピーカー、評価者、事業全体への意見・要望
 - 地域社会に学生と大学教育を開くFD
 - 学生の現状、大学教育の課題をどの程度共有すべきか



ご清聴ありがとうございました。

島根大学教育・学生支援機構 教育開発センター
鹿住 大助
dkazumi@soc.shimane-u.ac.jp



大学コンソーシアム京都 第4ステージの課題
新たな分散的FDと多元的FDネットワークのあり方の視点から

2014年9月12日
FDネットワーク代表者会議

公益財団法人 大学コンソーシアム京都
副事務局長 山本美奈



大学コンソーシアム京都

.....

大学コンソーシアム京都の概要 運営体制

事務局員・委員・役員等		基本施設（キャンパスプラザ京都）		財政	
延べ約250名		来場者 年間約45万人		予算規模 年間約4億円	
1. 事務局員		1. 施工	2009年7月	1. 会費収入	42%
出向職員（期間2年～4年で交替）	20名	2. 総工費	約100億円	主に大学から、継続的委員会費（在籍学生数×500～1,000円）である。京都市、京都府も委員会から、奨励会費（企業など）なども含まれる。	
専門職員（有期契約職員）	19名	施設設備約69億円、土地31億		2. 京都市指定官舎等事業収入	36%
臨時職員（アルバイト等）	4名	3. 実場数	11日平均、1,500人	キャンパスプラザ京都の管理運営に充当。	
専門研究員	2名	4. 階層	地下1階～地上6階	各種フォーラム・セミナーの研修料収入やシンクタンク事業の委託料収入など。	
2. 各種委員会 委員		5. 敷地面積	2,633平米	3. 事業収入	21%
事業別専門委員会委員	168名	6. 延床面積	11,677平米		
運営委員会委員	13名				
事業部長（運営委員会等出身）	6名				
3. 庶務・評議員・監事					
学長・行政・経済団体等	23名				



※2014年度当初実績

.....

大学コンソーシアム京都の概要 加盟組織一覧

国立大学	公立大学
京都大学	京都市立芸術大学
京都教育大学	京都府立大学
京都工芸繊維大学	京都府立医科大学



龍崎短期大学	京都女子大学	同志社大学
大谷大学	京都女子大学短期大学部	同志社女子大学
大谷大学短期大学部	京都府看護大学	同志社女子大学
京都医療科学大学	京都西山短期大学	佛教大学
京都外国語大学	京都聖母学院短期大学	平安文化学院大学
京都府立短期大学	京都府立短期大学	平安文化学院短期大学部
京都看護大学	京都ノートルダム女子大学	明田国際短期大学
京都産業大学	京都美山女子大学	立命館大学
京都音楽大学	京都文教大学	京都大学短期大学部
京都経済短期大学	京都文教短期大学	大阪経済大学
京都女子大学	京都産業大学	大阪府立大学
京都女子大学短期大学部	嵯峨野短期大学	京産大京産大センター
京都経済芸術大学	成安造形大学	
京都経済芸術大学短期大学部	成安大学	
京都造形芸術大学	成安大学短期大学部	

【協力会社】	【役員】
京都府	株式会社おどろ印刷
京都府	株式会社エヌエス
京都府	株式会社大塚食品京都支店
京都府	株式会社学生情報センター
京都府	関西エー・ス・エル・オー株式会社
京都府	キョーエス株式会社
一般社団法人京都経済同友会	京美青育美塾株式会社
公益社団法人京都工業会	株式会社フレテック
	株式会社サギオクス企画
	株式会社ジェ・エス・ビー
	株式会社同志志エシエンテラピー
	公益社団法人日本資質管理協会
	京都府支部
	株式会社フットエージェンシー
	三井住友海上火災保険株式会社京都支店
	株式会社ワタナベ工業

2014年6月28日 星期六

Copyright © The Consortium of Universities in Kyoto All Rights Reserved

大学コンソーシアム京都の運営体制

学長

教育学部

- 単位互換事業
- 生涯学習事業（京カレッジ）
- Eラーニング
- キャンパス・プラザ京都管理運営（指定管理）

文学部

- 高等学術研究事業（FD/SD）
- 国際交流事業
- 留学生住宅支援事業等

教育学部

- 教育施設管理事業部**
 - 高大連携事業（京都の大学「学びフォーラム」）
 - 京都高大連携研究協議会（高校、大学、産、官）
 - インターンシップ事業
- 教育開発事業部**
- 学生交流事業部**
 - 京都学生祭典
 - 京都国際学生映画祭
 - 京都学生芸術祭等事業

文学部

- 調査広報事業部**
 - 広報事業
 - 経営企画事業（大学のまち京都推進会議）
 - 都市政策研究事業
 - シンクタンク事業（未来の京都創造研究事業）
- 総務部**
 - 大学コンソーシアム京都の組織運営（経理、会計）
 - 全国大学コンソーシアム協議会
 - 留学生住宅支援事業等

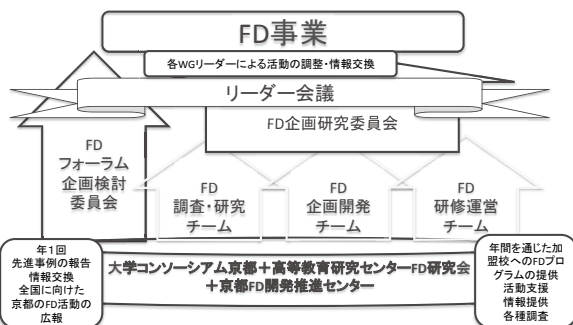
教育学部

教育学研究センター
国際交流センター
留学生支援センター

Copyright © The Consortium of Universities in Exeter All Rights Reserved

大学コンソーシアム京都 FD事業概要

事業推進体制



大学コンソーシアム京都 FD事業概要

FDフォーラム事業

FDフォーラム企画検討委員会

FDフォーラム(FD普及並びに大学教育改善の研究交流の「場」として、1995年度より実施)

年度	期数	人数	テーマ
1995年度	第1回	165	知の技法
1996年度	第2回	207	学生の多様化と大学教育の改善について
1997年度	第3回	233	授業の創造とFD
1998年度	第4回	206	組織的教育のあり方
1999年度	第5回	370	学生の学向上に何が必要か
2000年度	第6回	586	学生の学習意欲向上のために
2001年度	第7回	601	大学の教育力と学生の学習意欲の向上
2002年度	第8回	577	学びのシステム
2003年度	第9回	813	学生が自らに要求するために
2004年度	第10回	869	研究教育と社会教育
2005年度	第11回	916	これからの大学教育
2006年度	第12回	967	学生が伸びる大学教育
2007年度	第13回	1005	大学教育と社会
2008年度	第14回	1141	学生が身につるべき力とは何か～個性ある学生課程教育の創造～
2009年度	第15回	897	学生の学びを支える一工夫の展開
2010年度	第16回	860	組織的FDの創出～FD数値化と実践(在学)～ ～企業が求める人材として大学で育成したいため?～
2011年度	第17回	995	
2012年度	第18回	898	学生が主体的に学ぶ力を身につけるに
2013年度	第19回	832	社会を生き抜く力を養育するために

大学コンソーシアム京都 FD事業概要

FDフォーラム事業

2014年度 第20回FDフォーラム

開催概要

【テーマ】 未定

【日時】 2015年2月28日(土)、3月1日(日)

【会場】 同志社大学
寒梅館(1日目)、良心館(2日目)

同志社大学
Doshisha University



Copyright © The Consortium of Universities in Kyoto All Rights Reserved.

大学コンソーシアム京都 FD事業概要

FD企画研究事業

FD研修運営チーム

月	事業名
2014年9月	新任教員合同研修A
11月	京都FD執行部塾*コンソーシアム設立20周年事業として開催。運営のみ担当
1月	京都FDe塾 (シンポジウム形式)
2014年3月	新任教員合同研修B

FD企画開発チーム

月	事業名
2014年 通年	高等教育情報サイト「教まちや」ブログ記事執筆
2014年11月	教育実践講座 (仮) ①
2014年12月	教育実践講座 (仮) ②

Copyright © The Consortium of Universities in Kyoto All Rights Reserved.

大学コンソーシアム京都 FD事業概要

FD調査・研究チーム

統計事項

- 非常勤教員に対する研修ニーズ調査実施
- 新任教員研修受講者に対するフォローアップ調査に関する準備
- まんがFDハンドブック活用方法の検討
- FD関連の問い合わせに対するコンサルティング対応

2014年2月
第3弾「授業室開編」
を刊行しました！




Copyright © The Consortium of Universities in Kyoto All Rights Reserved.

大学コンソーシアム京都 SD事業概要

大学職員共同研修プログラム(2003年度～)

大学職員として身につけておくべき基礎的なスキルを学ぶと同時に、異なる大学の職員による集合研修という形態から得られる情報交換・ネットワーク形成に資するプログラム。2013年度は、ビジネスマナー(基礎編)、職場活性化コミュニケーション術、問題解決力向上、カウンセリングマインド、全面向上の各研修を開講。

SDフォーラム(2003年度～)

SD分野で関心の高まっているテーマを取り上げ、基調講演および分科会における事例報告や意見交換を通じて、SDに関する情報交流の場を提供することを目的として実施

SDワークショップ(2011年度～)

広く高等教育の課題や大学マネジメントに関わる重要事項をテーマとし、ワイワイガヤガヤと議論する中で、レクチャーだけでは得られない新たな発見、深い気づき、さらには、人的交流ネットワークを生み出すことを目的として実施

SDガイドブックの発行(2010年度～)

加盟大学・短期大学において大学職員として働きだした方を対象に、SD(Staff Development)に意味を持ち、高等教育の世界で働く意欲を高めてもらうことを目的として作成

デジタルブック版: <http://www.consortium.or.jp/consortium/sdguide/index.html>
PDF版: <http://www.consortium.or.jp/consortium/00000002/745/issue-373111821.pdf>

大学アドミニストレータ研修プログラム(仮) 2015より復活!

2010年度まで実施していた高等教育に関するトピックを幅広く集中的に学べる研修プログラム「大学アドミニストレータ研修プログラム」を実施期間やプログラム内容をリニューアルして2015年度より復活します。



Copyright © The Consortium of Universities in Kyoto All Rights Reserved.

大学コンソーシアム京都 FD・SD事業の課題

第3ステージプランの振り返り

- 地域性を活かした大学間連携による教育の質の向上と新たな教育プログラムの開発
- 「大学のまち京都」をリードする学生の育成
- 教育力向上のためのFD・SD事業の充実と地域ネットワークの推進
- 加盟大学・短期大学の個性・魅力を活かした機能的な「ミニ・コンソーシアム」の形成
- 「京都・ワンキャンパス」の国内外への発信
- 京都高等教育研究センターでの共同研究による京都の魅力の追及

具体的なアクション

京都FD開発推進センター

- (1) FDコンサルティングの実施
- (2) FD汎用研修プログラムの開発・提供
- (3) FD共用システム・アプリケーションの開発・運用とモニタリング
- (4) FD関連情報の蓄積と発信



Copyright © The Consortium of Universities in Kyoto All Rights Reserved.

大学コンソーシアム京都 FD・SD事業の課題

第4ステージプランでの目標

- 大学間連携による教育プログラムの充実
- 大学の発展を支える教職員の育成
- 大学のまち京都・学生のまち京都の活性化
- 国際交流プログラムの充実
- 調査・研究機能の再構築

- (1) 京都からのFD情報発信と情報交換・コミュニケーションの促進を念頭に置いたFDフォーラムの企画
- (2) 階層別FD研修の効果検証
- (3) 専門委員会体制の見直し
- (4) 教職協働の理念に基づくFD/SD事業の連携



Copyright © The Consortium of Universities in Kyoto All Rights Reserved.

大学コンソーシアム京都 FD・SD事業の課題

分散的FD/多元的FDネットワークのあり方 —第4ステージプランとのかかわりの中で—

(1) 京都からのFD情報発信と情報交換・コミュニケーションの促進を念頭に置いたFDフォーラムの企画
(2) 階層別FD研修の効果検証
(3) 専門委員会体制の見直し
(4) 教職協働の理念に基づくFD/SD事業の連携

具体的なアクション

(1) 情報ポータルサイトの開設とメールマガジンの発行
FDフォーラムにおけるコミュニケーションスペースの設置と加盟校によるポスターセッションの試行

(2) 非常勤教員向け研修ニーズに関する調査や新任教員研修修了者へのフォローアップ調査の実施、一般教員向けFD研修の検討と試行

(3) FD企画研究委員会内を3チーム制にすることによって、委員の関与を深くする

(4) SD研修企画委員会との協働により、教職協働で取り組むべき課題の抽出とコラボ企画の検討

Copyright © The Consortium of Universities in Kyoto. All Rights Reserved.

高等教育イベントNAVI 教まちや

Copyright © The Consortium of Universities in Kyoto. All Rights Reserved.

FACEBOOK ページ

Copyright © The Consortium of Universities in Kyoto. All Rights Reserved.

他コンソとのコラボレーション

Copyright © The Consortium of Universities in Kyoto. All Rights Reserved.

ご清聴ありがとうございました

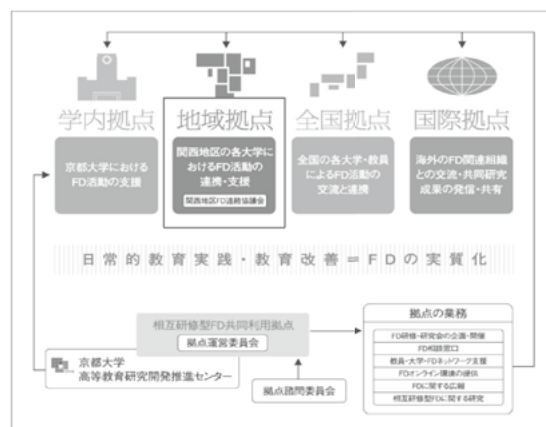
大学コンソーシアム京都
CUA The Consortium of Universities in Kyoto

教育関係共同利用拠点の今後 — 関西地区FD連絡協議会の行方 —

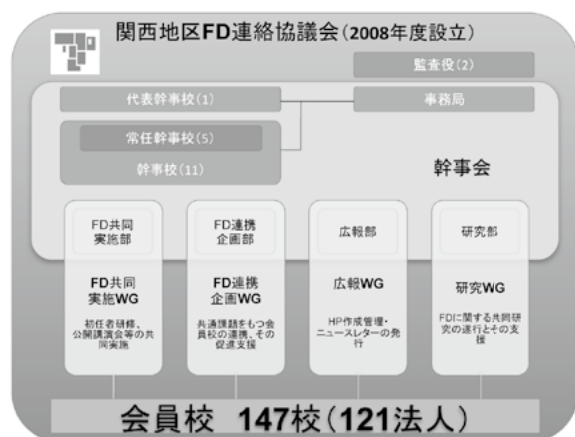
京都大学高等教育研究開発推進センター

飯 吉 透

2014.9.12 JFDN2014 京都大学



2



◆関西FD関連 講習会・研修会等

- 「学習のための、学習としての評価—PBLとMOOCにおける学習評価の可能性—」(京都大学) (2014年10月8日(水)開催)
- 第11回FDフォーラム「アクティブ・ラーニングのFuture Design」(関西大学) (2014年9月6日(土)開催)
- 「授業の基本」+「成績評価」ワークショップ(神戸薬科大学) (2014年8月7日(木)・8日(金)開催)
- FD研修会「授業の基本研修会-成績評価の方法:ループワークの作り方-」(滋賀県立大学) (2014年8月11日(月)開催)
- FD研修会「授業の基本研修会-授業に学生を「参加」させるには—」(滋賀県立大学) (2014年7月25日(金)開催)
- FD研修会「授業の基本研修会-視覚教材を用いる授業のために—」(滋賀県立大学) (2014年6月27日(金)開催)
- FD研修会「授業の基本研修会-数式を扱う授業のために—」(滋賀県立大学) (2014年5月30日(金)開催)
- FD研修会「授業の基本研修会-授業の基本と授業づくり-」(滋賀県立大学) (2014年4月19日(土)開催)

◆関西FD総会 (2014年5月17日)

- 基調講演: 「FDの現状と課題について」
(文部科学省高等教育局大学振興課長 里見明香氏)
- ワーキンググループ報告: FD共同実施WG、FD連携企画WG、広報WG、研究WG
- FDに関する個別テーマの分科会(新企画)
 1. 「FD担当者のためのQ and Aセミナー—今さら聞けないFDの基礎基本—」
 2. 「学びの意欲が持てない現代大学生の自己像とは?—彼らをどう理解し支援するの?—」
 3. 「アクティブラーニングの新しい展開・反転授業」
- 会員校の組織的FD活動の情報交換・ピアレビューのための「FD活動報告会2014」(ポスターセッション)
- 参加者: 150名 (72法人)



◆「FD活動の報告会2014」

- 各大学・機関のFD活動に関わる組織的ポートフォリオをポスターセッションによってお互いに共有 = 相互評価の場と位置づけ
- ピアレビューコメントは、「指定校用」(事前)と「参加者用」(当日)の2種
- 22の会員校から25件のポスター発表
- 多種多様なFD活動について具体的に学べる

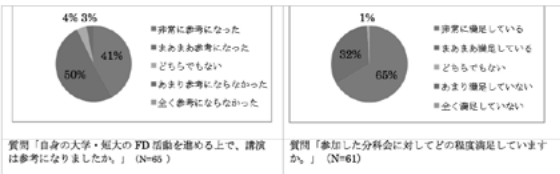


第7回総会「FD活動の報告会2014」

■関西地区FD連絡協議会 2014年5月総会参加者アンケートより

質問「関西地区FD連絡協議会に望むこと、今日の総会全体で何かお気づきの点など、以下に自由にご記入下さい。」

- FDに携わる関係者の人脈形成、情報共有の場として、その存在意義は大きいです。(私立大学・教員)
- このような機会のつながりは、とても大事だと思います。はじめて代理できたのですが、よい機会でした。(私立短期大学・教員)
- 加盟校のネットワークをもっと強くするべく、研究WGのSGを増やす、自主的集まりを増やすといった取り組みが必要ではないか、分科会、ポスターセッションはFD活動活性化のためによい活動である。(私立短期大学・教員)



■関西地区FD連絡協議会 初任教員向けプログラム Program for Junior Faculty (愛称：カンジュニ) 2012年度・2013年度参加者アンケートより

質問「今回のような他大学の研修会を受講できる制度について、ご意見・ご感想があればお書きください。」

【有意義な制度である】

- 今回のように広域的に、複数の大学の協同開催をすることで研修を受ける機会が広がるのでとてもいい制度だと思います。(私立大学・助教・教育歴4年)
- 自身の大学での研修は年に2回程度で、内容も限られるため、他大学の研修を受講できるのは、とても良いシステムだと思います。(私立大学・教授・教育歴13年)
- このように他大学の研修会を制度化されたものとして敬候することは、よい実行内容を正しく共有でき、また学ぶことができるという意味で大変有意義であると思います。(私立大学・助教・教育歴なし)
- 教員である私は、とても担当科目が多く、通常の期間の研修会は参加できません。今回のようなタイミングで行っていただけると参加しやすかったです。(私立大学・准教授・教育歴18年)
- 【協力で研修会を実施することが困難な大学に対する支援として有効】
- 私が所属している短大のように、単独で研修会を開催することの難しい大学の教員にとっては、非常にありがたい制度だと思います。(私立大学・事務職員)
- 非常にありがたいです。もっと活用していこうと検討しております。本学はFD活動があまりできておらず、自前はなかなか難しいので、まずは他大学様のお力をお借りし、ゆくゆくは本学も何かしらご提供できるようになれば、と思います。(私立大学・事務職員)

(続き)

【他大学の教員と交流することのメリット】

- 初めて他校の研修会に参加させていただきましたので、全てが目新しく、実地校と本校との違いや本校の特色を改めて考える機会になりました。ありがとうございました。このような研修会が多くあれば、大学教育全体の底上げに繋がると思います。(国立大学・准教授・教育歴10年)
- 学内でもさまざまな取り組みが行われておりますが、企画側の限界(?)もあり、繰り返しやマンネリの感も受けられます。他大学の研修会への参加は、情報交換や交流の意味もあって、とても良いと思います。専門領域の世界という狭い範囲での発想に固まらず、他の立場の考え方や理解の仕方など、学ぶべき事はおおいにあると思います。さらに、自分自身の好奇心も刺激されます。今後も、この制度をますます活発にしていけたらと考えております。(私立短期大学・講師・教育歴7年)

◆特別経費・拠点経費の終了

- ▶ 特別経費プロジェクト「大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成」(2008～2012年度)
 - ・・・ 拠点を支える運営費等 約8000万円
- ▶ 教育関係共同利用拠点プロジェクト「教育能力向上に向けた実践的な研究と方策の構築」(2011～2014年度)
 - ・・・ 拠点運営円滑化のための人件費 約1800万円

◆関西FD会費値上げに関する対応案

▶ 会費の値上げの可能性について(平成25年度アンケート)

- A. 現在の活動内容維持のための会費値上げ許容 7校 (15.9%)
(「5万円まで」3校、「3～4万円まで」1校、「3万円まで」3校)
- B. 事務局の継続にかかる費用相当額の値上げ(年会費3万円)許容 20校 (45.5%)
- C. 会費は据え置き、今後の関西FDのあり方、活動を見直すべき 16校 (36.4%)
- D. その他 1校 (2.3%) 資料がなく値上げについて検討できない

▶ 値上げに関して「許容できる」という回答が6割を超えているが、据え置きを要望する大学も少なくない

▶ 平成26年度は値上げをせずに据え置く

▶ 平成26年度総会の時点での状況により、例えば新たに特別経費などの外部資金の獲得が困難である場合などには、平成27年度よりの値上げを提案させていただく

◆今後のための指針

▶ 各大学におけるFDや教育改善のニーズの多様性に、FDネットワークとして、どのように対応するか?

▶ 地域FDネットワークとしての持続可能性をどう確立するか?
(「大学コンソーシアム」モデル?)

▶ 各地域FDネットワーク間の連携を、誰がどのようにコーディネートしていくのか?

▶ 授業改善やFD支援のためのツールやコンテンツを、FDネットワークとして、どのように収集・共有していくのか?

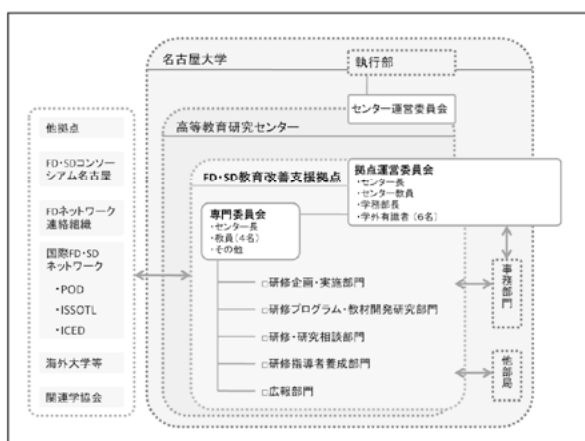
▶ 「FDのため」のFDネットワーク時代の終焉?

名古屋大学「FD・SD 教育改善支援拠点」の今後

名古屋大学高等教育研究センター
夏目達也

「FD・SD 教育改善支援拠点」の目的

- ①大学教員の教育能力および職員の職業能力の開発・向上を通じて、教職員の自発的な教育改善の取組を促進すること。
- ②中部地域を中心とした各大学における教育・学生支援の質向上を実現すること。



拠点事業による活動

1. 対象者の職位・職務・専門性に対応した体系的FD・SDプログラムの開発・提供
 - 学内各部署・国内大学・関連団体との連携
 - 諸外国の拠点大学との連携による開発
2. プログラム関連教材の開発・提供
 - 学内各部署・国内各大学との連携

拠点事業によるFD・SD関係出版物



拠点事業による活動

3. 研究会活動
 - ・アカデミック・ライティング支援研究会
 - ・物理学講義実験研究会
 - ・教育学における映画を教材とした授業開発研究会
 - ・古典教養教育研究会
 - ・障がい学習支援研究会
 - ・図書館活用研究会

拠点事業による活動

4. FD・SD関係ワークショップ・セミナー

- 4.1 教員向け
「ポートフォリオが学習支援に活用されるための条件」
「古典教養教育の現状と課題」
- 4.2 職員向け
「事例で学ぶ教員免許業務」
「大学教務実践研究会」年次大会
- 4.3 学士課程学生向け
「レポートの書き方講座」「プレゼンテーション入門」
「魅力的な研究計画書の書き方」等。
- 4.4 院生・ポストドク向け
「大学教員準備講座」(大学院正規科目)

拠点事業による活動

- 5. 「大学教育改革フォーラムin東海」
 - ・ 目的: 各地域・大学での教育改善活動の成果の報告・共有、改善方策の検討
 - ・ 毎年3月実施。全国から約400名が参加。
 - ・ 基調講演、ポスター、分科会討論等。

拠点事業による活動

6. 地域における各種FD・SD情報の提供

- ・ ニュースレター「かわらばん」
- ・ FD・SDカレンダーの作成・広報
 - FD・SD関連行事日程を紹介
 - 学内関連センターと合同
- ・ メールマガジン
- ・ HPによる広報



拠点事業による活動

- 7. 国際的FD・SD団体での教職員の研修
 - POD等への教職員の派遣
- 8. 国内大学へのFD・SD実施のサポート。
 - 講師の派遣、各種支援ツールの提供

今後の活動の基本方針

1. FD・SD活動の見直し

- センターの活動における位置づけ
- イベント型から日常的活動中心型へ
 - 「研修」だけでなく、実質的な能力形成、教育改善につながる内容・形態の追求



「メンタープログラム」

今後の活動の基本方針

2. 学外支援のあり方の見直し

- ・ 「大学教育改革フォーラムin東海」
 - 経費をいかに確保か。
 - 設立経緯をふまえ大学間連携で実施、スリム化、それとも・・・。
- ・ 他大学のFD・SD活動の支援
 - いかに継続するか。

The image shows the top portion of a presentation. On the left is the MEDC logo. On the right is the Gakko University logo and name in Japanese. The main part of the image is a dark grey rectangular box containing the title text in white Japanese characters. Below the box, the text '国立大学法人岐阜大学 医学教育開発研究センター 丹羽雅之' is centered. At the bottom, the text 'JFDN 京都大学 2014.9.12' is centered, and a small page number '1' is in the bottom right corner.

研修事業

STAFF DEVELOPMENT

医療現場で活躍する
チームシフト
since 1978

研修事務局 研修部
090-4777-3379

問題基礎型学習

PROBLEM-BASED LEARNING

「問題基礎型学習」が医療教育のスタンダード

時代の発達を乗り超える能力

「知識は必ずしも役に立たない」だからこそ
「思考力を高める教育」

大学院

DOCTORAL COURSE IN MEDICAL EDUCATION

医学教育博士課程

シミュレーション教育

SIMULATION

医学教育共同利用拠点

岐阜大学 医学教育開発研究センター
MEXT NATIONAL COLLABORATION CENTER

MEDC

MEDICAL EDUCATION DEVELOPMENT CENTER, GIFU UNIVERSITY

eラーニング

e-LEARNING

インターネット
MEDC Home

コミュニケーション教育

COMMUNICATION

傾聴力向上 心身両面での成長のサポート

1日60分
10名以内の少人数制授業

良好な患者・医療者関係の構築

傾聴能力 傾聴力向上 傾聴力向上

「患者の話を聴き、心身両面に貢献する」

英語教育

ENGLISH EDUCATION

英語力向上
English for Medical Practitioners Workshop

国際交流

INTERNATIONAL EXCHANGE

海外研修・海外実習・海外留学・海外研修
海外研修・海外実習・海外留学・海外研修

MEDC 医療教育センター **岐阜大学**

医学教育セミナーとワークショップ

全国規模の医療系教員FD（MEDCの根幹的事業）
2001年以来、継続的に開催
通算52回（年4回開催、2回は他学と共催）
のべ参加者6,000名以上

秋田大学
金沢医科大学
京都大学
大阪医科大学
近畿大学
広島大学
九州大学
久留米大学
徳島大学
藤田保健衛生大学
名城大学
岐阜大学
札幌医科大学
岩手医科大学
福島県立医科大学
筑波大学
埼玉医科大学
日本医科大学
東京大学
東京慈恵会医科大学
慶応義塾大学
東邦大学
東京医科歯科大学
千葉大学
横浜市立大学
琉球大学




日本の医学教育の背景・課題

急激な社会情勢の变化

超高齢・少子化・人口減少

どの国もかつて経験したことのない急激な変化

高齢化 → 疾病構造の変化

少子化 → 健全育成・障害予防の必要性

人口減少 → 地域医療・都市医療に大きな影響

総合診療・在宅医療の重要性
経済／社会保障への影響

財政問題

限られた財政の中で

- 個々の医療者の能力を最大限引き出す
- 疾病予防に重点を置いた医療福祉への転換
- 世界最高水準の医療と研究の維持

グローバル化

医療のグローバル化

患者も医療者も国境を越えて移動する時代

我が国固有の医療制度に固執できない

国際認証

- 世界医学教育連盟WFMEが医学教育のガイドラインを策定
- 世界各国の医療教育機関は、グローバル・スタンダードに準拠した教育体制の構築が求められている（国際認証制度）
- 米国はこの基準を満たした医学部卒業生でなければ米国での免許取得と診療を認めない方針（2023年問題）

MEDC 医薬教育センター
岐阜大学

課題 (続)

急激な社会変化に伴う医療問題克服

絶えず自らの能力を向上できる医療人育成が必要

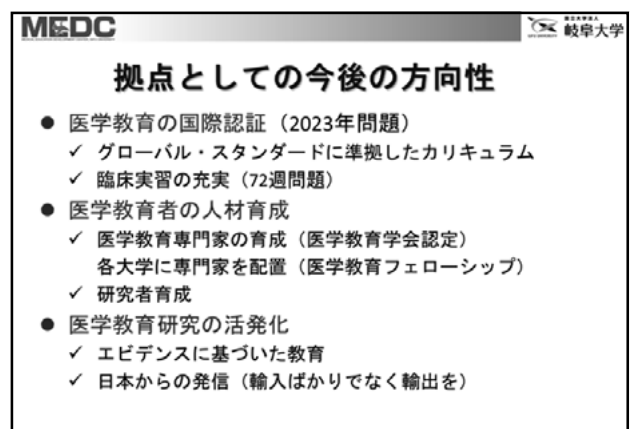
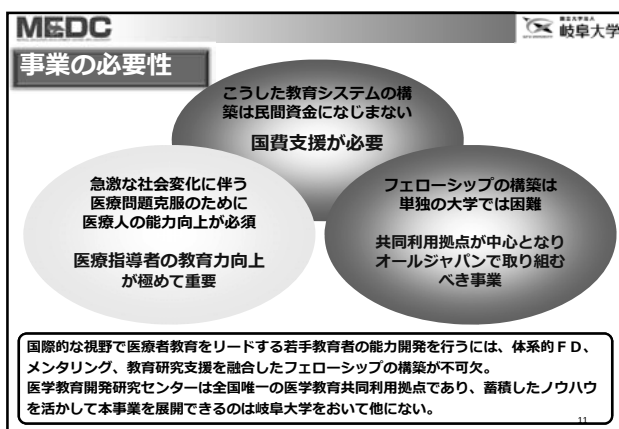
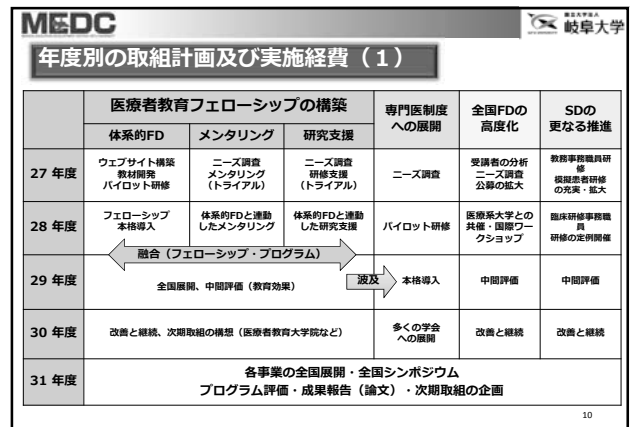
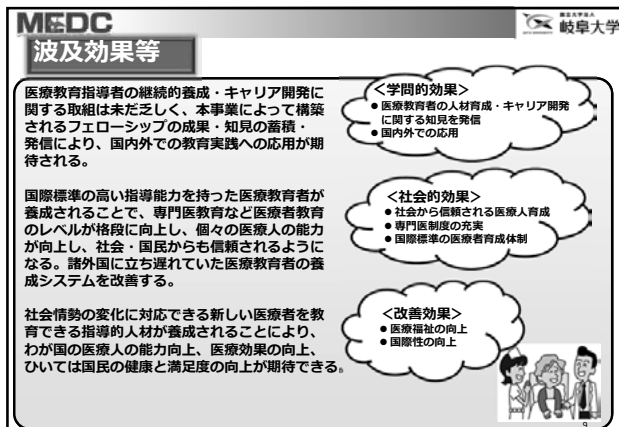
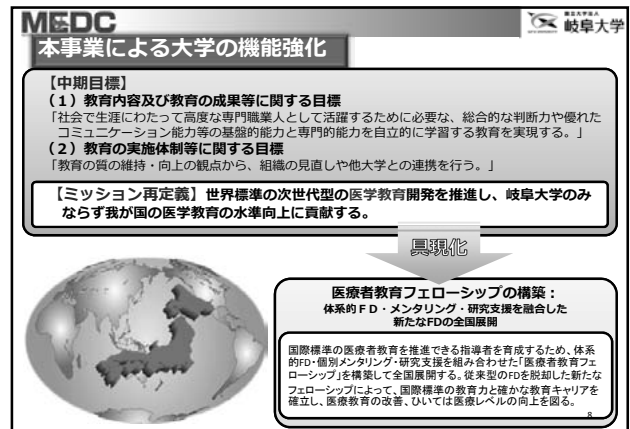
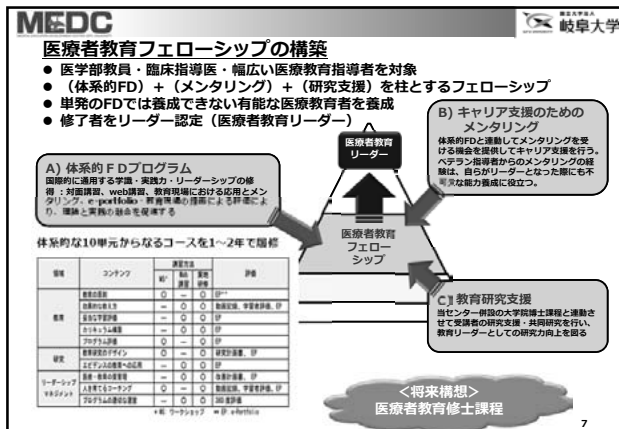
国際的な視野で医療者教育をリードできる指導者育成が必要

体系的FD・メンタリング・研究支援を融合した
医療者教育フェローシップ・プログラム構築の必要性

医療教育者養成システム構築の立ち遅れ
諸外国では医療者教育の修士課程が100大学以上で設立され、
フェローシップ形式で指導者の育成が活発に行われているが、
わが国には皆無である。

5

[illegible]



F-レックス
FDネットワーク代表者会議 第7回会合
京都大学吉田南1号館・106室

フレックスにおける相互研修型FDの実践

福井県学習コミュニティ推進協議会
福井工業大学 杉原 一臣

F-レックス

発表の概要

- フレックスについて
福井県高等教育機関による大学間連携
- フレックスの活動
学習コミュニティの活性化、基盤システムの構築・運用、研究会・シンポジウムの開催、……………
- 相互研修型FD
FD合宿研修会、TP&AP作成WS、学生意識調査アンケート
- これまでの取組の総括&課題と展望

F-レックス

フレックスについて

- 福井県大学間連携プロジェクト
- 平成20年度文部科学省戦略的大学連携支援事業
「個性的な地域創生のための学習コミュニティを基礎とした
仮想的総合大学環境の創造」
- 福井県学習コミュニティ推進協議会 ⇒ フレックス

平成26年4月1日現在

F-レックス

フレックスについて

- 取組全体の目標
 - (1) 継続的な大学連携基盤(人のネットワークおよびICTシステム)の構築
 - (2) 学習コミュニティによる大学間および地域コミュニティの活性化
 - (3) 大学間連携による大学教育の改善と改革の推進
(次代の大学のあり方への提言作り)

F-レックス

フレックスについて

運営体制

F-レックス

フレックスの活動

【日常的活動】

- 学習コミュニティの形成と運用
- 基盤システム(SNS・LMS・ePortfolio)の運用
- 単位互換制度情報システムの運用
- 公開講座情報システムの運用



Fレックスの活動

【イベント的活動】

- ・ シンポジウムの開催
- ・ FD合宿研修会の開催
- ・ ティーチング・ポートフォリオ (TP) / アカデミック・ポートフォリオ (AP) 作成WSの開催
- ・ (チーム主催) 研究会の開催
- ・ 学生意識調査アンケートの実施
- ・ その他イベントの開催支援
(例) ビブリオバトル、まな種、MOF (ePortfolio関連)



Fレックスの活動

【イベント的活動】

- ・ シンポジウムの開催
- ・ FD合宿研修会の開催
- ・ ティーチング・ポートフォリオ (TP) / アカデミック・ポートフォリオ (AP) 作成WSの開催
- ・ (チーム主催) 研究会の開催
- ・ 学生意識調査アンケートの実施
- ・ その他イベントの開催支援
(例) ビブリオバトル、まな種、MOF (ePortfolio関連)



相互研修型FD

・ FD合宿研修会

Fレックス参加校を中心に、県内高等教育機関の教職員が集まり、国内で注目されている(教育関連の)テーマに関する研修を実施している。

開催日	会場	テーマ(主要)
第1回 H22.9.3-9.4	池田町「冠荘」	初年次教育、学生意識調査アンケート(県内学生の特徴)
第2回 H23.8.26-8.27	福井県立大学小浜C	科学・技術対話、キャリア教育
第3回 H24.9.3-9.4	仁愛女子短期大学	学習評価と質の評価、ティーチング・ポートフォリオ
第4回 H25.9.9-9.10	福井工業高等専門学校	授業デザイン、キャリア教育
第5回 H26.9.4-9.5	福井県立大学福井C	教学IR、LMS



相互研修型FD

- ・ ティーチング・ポートフォリオ (TP) / アカデミック・ポートフォリオ (AP) 作成WSの開催
 - ー 平成24年度(平成25年3月)より定期的に開催
 - ー 会場校: 福井県大、福井大 ⇒ 以降、参加校で輪番
 - ー スーパーバイザー:
 - 栗田 佳代子 先生(東京大学)、
 - 北野 健一 先生(大阪府大高専)
 - ー 参加者(メンティー): TP14名、AP1名
 - ー 第3回TP作成WSにて、ダブルメンターシステムの試行

メンターの質向上の取り組み



相互研修型FD

・ 学生意識調査アンケート

Fレックス参加校において、学生の特徴及びその変化を継続的に調査することを目的に、平成24年度より実施

- ー 平成23年度にWGが結成(一部参加校のメンバー)
- ー 平成25年度は全参加校でアンケートを実施
 - ※1 分析対象の回答者数: 2907名(4校)
 - ※2 質問項目の変更(例)スマートフォンの利用
- ー 一部参加校において、結果のフィードバックを実施

「記名式」と「無記名式」で実施した参加校が存在



これまでの取組の総括

- ・ 「FD合宿研修会」「TP&AP作成WS」「学生意識調査アンケート」等、相互研修型FDは一定の成果を挙げている
 - ⇒ FDを通じた人的ネットワークの確立
 - ⇒ 組織を超えた人材交流(若手教員の相談窓口)
 - ⇒ 大学間学習コミュニティにかかる活動の促進
(例) 殿下地区における地域学習の実践
数学教育に関する情報交換
LMS等 教育の情報化に関する支援



課題と展望

- 文部科学省の大学連携支援事業指定から6年
- 「教育工学」の専門家と各参加校のFD担当者を中心に、相互研修型FDは今後も継続する見込み
- コア教員(代表教員)の定着化から固定化
 - ⇒ 柔軟性のあるネットワークを展開する支障に？
 - ⇒ 垣根を越えた活動の醍醐味を後進に！！
- 福井県大学連携リーグのコンソーシアム化
 - ⇒ 福井県大を中心とした大学コンソーシアムの検討
 - ⇒ Fレックス非加盟校との連携の模索



いしかわの大学人養成を目指す

FD・SD共同プロジェクト、
若手教員授業研究会の試み

2014.9.12 FDネットワーク代表者会議(JFDN) 第2部・報告10

杉森 公一 (すぎもり・きみかず)

大学コンソーシアム石川/金沢大学大学教育開発・支援センター

教育支援システム研究部門 准教授

ksugimori@staff.kanazawa-u.ac.jp

<http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

学都いしかわ・課題解決型 グローバル人材育成システムの構築

- ・地球規模の視野を持ちながら地域課題に主体的に取り組み解決できる人材(課題解決型グローバル人材)を育成する:地域連携・企業連携
- ・連携・協働を下支え、高等教育機関の機能分化・相互補完に基づく学生・教職員支援ネットワーク

ー「FD・SD共同プロジェクト」

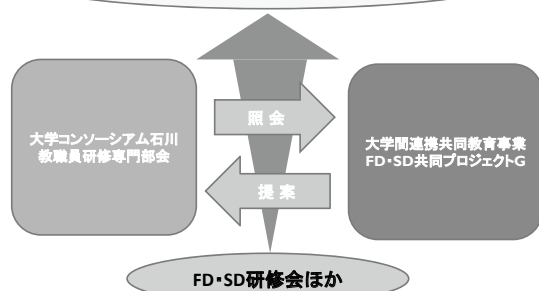
ー「障害学生等支援プロジェクト」

ー「ICTシステム活用促進・開発プロジェクト」

<http://gakuto.ucon-i.jp>

2

FD・SD共同教育プログラム



3

2013年度の取組

【作業】

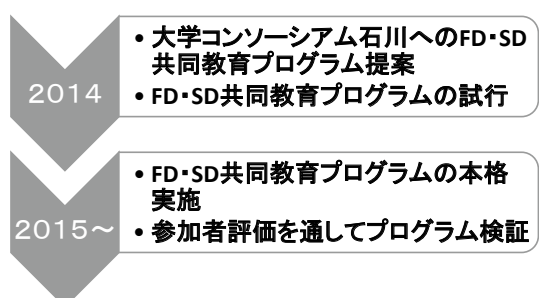
- ・2013年夏頃にブレインストーミングを2回(各1日)行った。
- ・第1回でアイデアを自由提案、第2回でアイデアの整理。
(作業負担のかからない形態を模索し、既存のFD・SDプログラムをマッピング、新たに必要なFD・SDプログラムを検討) →別紙・資料参照

【実績】

- ・FD・SD共同プロジェクトGからのアイデアの一部をコンソ石川教職員研修専門部会に提案し、大学共創フォーラム2013、若手教員授業研究会等、FD・SD研修会「地域で学ぶ、地域と学ぶ」計4回に取り組んだ。

4

2014年度以降のロードマップ



いしかわの大学人養成の共同教育プログラムへ

5

若手教員授業研究会

- ・原則40歳未満の若手教員を対象
- ・2013年11月～ 第1水曜 18:30-20:30
計4回開催 6機関のべ41名が参加
- ・主催:大学コンソーシアム石川教職員研修専門部会
- ・メーリングリスト(若手の会ニュースレター)、ウェブサイトを通じた交流
<http://ks-edu.w3.kanazawa-u.ac.jp/wakate/>

6



趣旨・目的

- 趣旨：
 - － 教育経験 3～10年の教員のフォローアップ研修と連携によって、教育・研究に携わる者としての教育哲学・研究哲学を研鑽し成長を続ける。
 - － 「授業」をどうするのかに焦点をあて、大学の枠を超えて教育学・学習科学・専門分野の知恵を持ち寄り、語り合い学び合う「場」を創る。
- WS・レクチャーの到達目標
 - － 自身の授業への取組の過去・現在をふりかえる
 - － これからの授業への行動目標を立てる

8

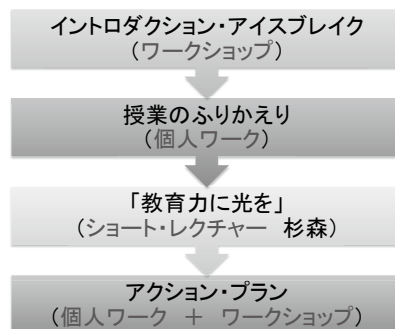
研修ニーズ調査によるテーマ設定

No. 項目 得票数	No. 項目 得票数
19. 受講態度の悪い学生の指導 3	14. 黒板の書き方 2
44. 学力の低い学生、モチベーションの低い学生の支援 4	54. 研究論文の書き方 2
04. アクティブ・ラーニング 31	35. 形成的評価と効果的なフィードバック方法 2
52. 教育実践を論文にする方法 3	40. 初年次学生の支援 2
02. 学習に関する理論 4	58. 職場での円滑な人間関係の構築と維持 2
03. 協同学習、グループワーク、TBL 3	21. 批判的思考力の育成 2
36. ルーブリック評価 3	33. 成績評価の方法 2
12. 講義のための話し方 4	
17. 大人数講義の授業方法 2	大まかに分類すると...
20. コミュニケーション能力の育成 2	☆学習動機付けを上げる理論と方法 (学習科学、アクティブ・ラーニング)
01. 授業の設計・シラバスの書き方 2	☆授業方法 (話し方、大人数講義、質問、黒板)
13. 質問の方法 3	☆教育評価 (シラバス、ルーブリック、フィードバック、成績評価)

※横間祥子、大竹奈津子、佐藤浩章、山田剛史、吉田博、横野秀典
大学・短大・高専職員の研修ニーズとFDの課題、大学教育研究ジャーナル、10、67-79(2013) より項目抽出

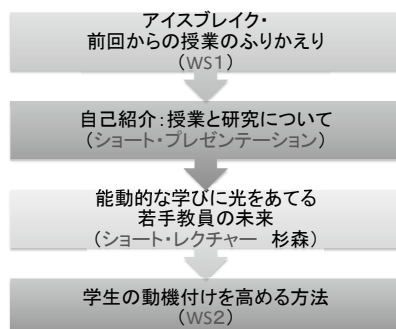
9

第1回研究会 (18:30 - 20:30)



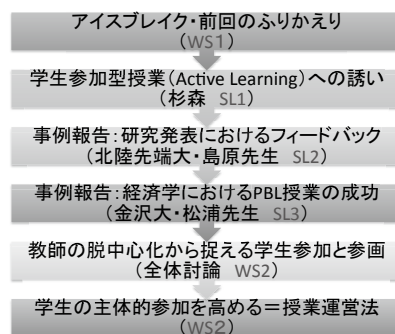
10

第2回 18:30 - 20:30



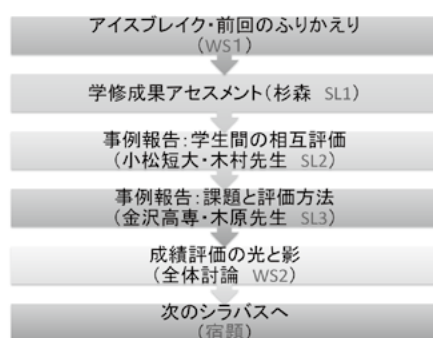
11

第3回 18:30 - 20:30



12

第4回18:30 - 20:30



13

ショートレクチャーの例(第1回)

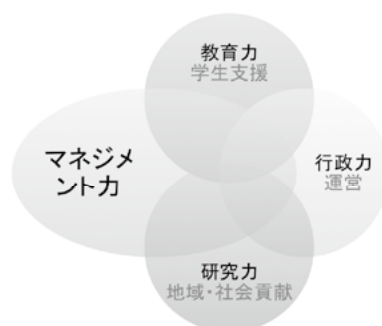
ショート・レクチャー 「大学の教育力に光を当てたい」

金沢大学大学教育開発・支援センター
杉森 公一

14

ショートレクチャー

大学教員に求められる、能力



15

ショートレクチャー

学習主体の転換と、大学改革

・学習パラダイムの転換

－ティーチングからラーニングへ



－大学改革の状況

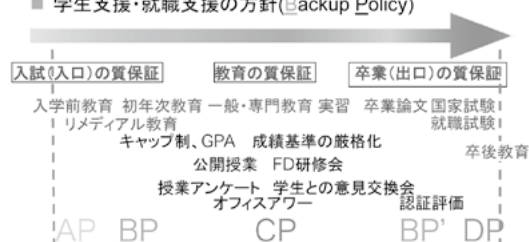
- ・中教審答申(H17.1.28「高等教育の将来像」)
- ・中教審答申(H20.12.24「学士課程の構築」)
- ・文科省(H24.6.5「大学改革実行プラン」)
- ・中教審答申(H24.8.28「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」)
- ・首相官邸・教育再生実行会議(H25.10.31「第四次提言」)

16

ショートレクチャー

高等教育(大学・短大・高専)に求められる、 3+1の方針(ポリシー)

- 入学者受け入れの方針(Admission Policy)
- 教育課程編成・実施の方針(Curriculum Policy)
- 学位授与の方針(Diploma Policy)
- 学生支援・就職支援の方針(Backup Policy)



17

ショートレクチャー

大学での学びの主体の転換

・教授(Teaching)

- － 教師が～を教える(内容重視)
講義 研修

・学修(Learning)

- － 学生が～できる(学生の知識、情意、行動の変容)
実習・演習 ワークショップ 卒業論文

・成果(Outcomes)

- － 教育成果(教師)、学修成果(学生)、学生の成長
卒業時点での成長 卒後10年後の姿

18

ショートレクチャー

では、学修成果をどう評価するか

- ・ ラーニング・アウトカムズ(学修成果)とは、
 - － 認知的領域(知識・理解、思考・判断)
 - － 情意的領域(関心・意欲、態度)
 - － 精神運動的領域(技能・表現)
- における、卒業生の属性＝獲得した内容
- ・ 教育評価の段階
 - － 診断的評価・・・準備学習、前提知識を調べる
 - － 形成的評価・・・学習の途中での状況把握
 - － 総括的評価・・・学習の後に、習得の最終確認
- ⇒教育・学習の評価は、教師と学生がともにつくりあげる

19

ショートレクチャー

競争(教授)から協同(学修)へ

- ・ 教師の役割と行動
 - － 伝達者(メッセンジャー)
 - － 先導者(リーダー)
 - － 指導者(コーチ)
 - － 促進者(ファシリテーター)
 - － 同行者(コンパニオン)
- ・ 授業進行に伴い必要な役割と行動が変化
 - － 学習過程および学習者の成熟度と共変する
 - － 必要なことは教え、参加者の活動を重視する

20

ショートレクチャー

これから:2つの提言

- ・ アクティブラーニング＝能動的学修へ向けて
 - － 教師の授業目的、学生の学修目標の、共通理解
 - － アクティブラーニングやルーブリックは学生と教師の学びを進める「道具」であって、道具を使うことがゴールではない
- ・ 学びの場の創造
 - － 大学という場、多数の教職員が多様な角度から多面的に学生に光を当てる
 - － ラーニング・スペース、ラーニング・コモンズとしての自由で自律的な学習の「場」と、学修支援の相乗

21

ショートレクチャー

(教師にとって)講義とは何か？

- ・ 「授業というシステム」

教えたのにもかかわらず学生が学んでいなかったという事実があるならば、その原因を学生にのみに求めて、あいもかわらない講義法を採用し続けるのは問題である、と考える。

授業の改善を、どれだけの割合の学生が授業の目標にどれだけ到達したかに関する確かなデータに基づいて行なっていこうとする。授業の目標を学生に知らせる、何ができるようにになれば履修したといえるのかを、できるだけ学生に伝えようとする。 (山口栄一、1985)

22

ショートレクチャー

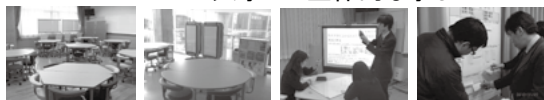
すべての学生に多方面から光をあてる

教育情報の分析

→ 学習活動・学生生活・学習環境



- ・ 教員意識の変化＝自身の教育哲学の再発見
- ・ 学生意識の変化＝「なりたい自分」を目指すための大学での主体的な学びへ

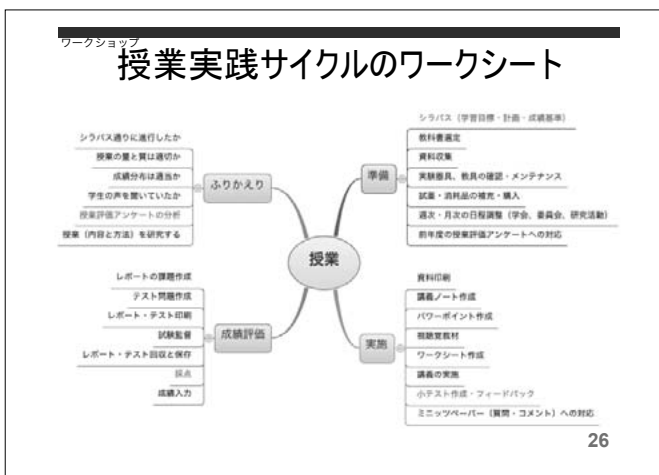
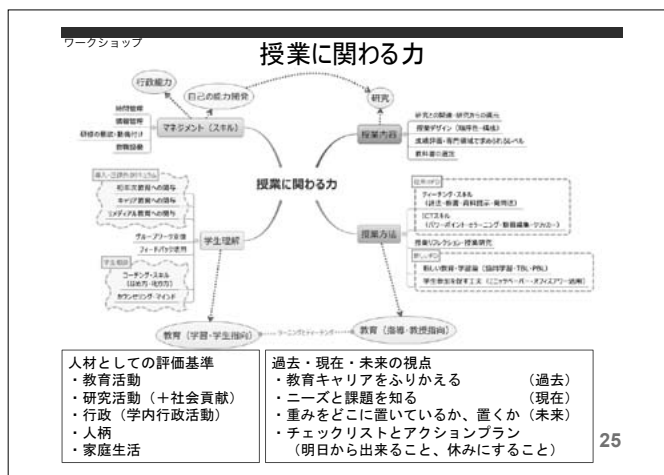


23

ワークショップの例(第1回～第4回)

- ・ グループ(3～4名)によるディスカッション
- ・ 毎回のテーマ・ショートレクチャーに応じた、授業・学生支援のふりかえりと全体への共有
- ・ ワークシートに記入しながら、個人→グループシェア→個人(明日からの行動目標＝アクションプラン)へ
- ・ 授業研究会の要(かなめ)として、グループワークに目一杯の時間を使う
- ・ 誘導、制限はなるべく課さない

24



まとめ

- ・大学コンソーシアム石川として初めての、若手教員を対象とした連続研究会・ワークショップを試行
- ・県内19機関のうち、6機関から国公私／大学・短大・高専／専門分野が多様な教員が集った
- ・参加者の声
 - 「同年代の教員が集まって話すこと自体が初めての機会」
 - 「授業について振り返ることがこれまで無かった」
 - 「2時間が短く、継続してテーマを掘り下げたい」
 - 「学生に声をかけ、期待のまなざしを注ぐことから始めたい」
- ・若手教員のもつ教育力【＝30年後の大学をかたちづくる】へ、互いに光を当てることで私たちは学生の目を輝かせる「光源」となる！

27

看護学教育研究共同利用拠点における 現況と課題

平成26年9月12日FDネットワーク代表者会議
千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター 鈴木友子



看護学教育研究共同利用拠点 「英人学人国際看護研究利用看護実践研究指導センター」

看護実践研究指導センター事業

プロジェクト①
教育—研究—実践をつなぐ組織変革型看護職育成支援プログラムの開発

看護実践研究の推進

看護職育成支援プログラムの開発

組織変革型支援型研修事業の実施

情報収集・蓄積・発信

プロジェクト②
看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進

看護学教育におけるFDマザーマップ、FDプランニング支援データベースの開発

FDマザーマップを看護系大学間で共同活用できる体制の構築

研修事業

看護学教育指導者研修

看護学教育ワークショップ

国公私立大学病院副看護部長研修

国公私立大学病院看護管理者研修

認定看護師教育課程（乳がん看護）

看護学教育研究共同利用拠点 「英人学人国際看護研究利用看護実践研究指導センター」

プロジェクト紹介

看護学教育におけるFDマザーマップの開発と 大学間共同活用の促進プロジェクト

<目的>
各看護系大学が高等教育における看護学教育の特質を踏まえた有効なFDを計画的に企画・実施・評価できるよう支援する。

<目標>
1. 高等教育における看護学教育の特質を踏まえた体系的なFDマザーマップおよびFDプランニング支援データベースを開発する。
2. 開発したFDマザーマップを看護系大学間で共同活用できる体制を構築し、全国6ブロックの基幹校の研修をうけた教員（ファカルティ・ディベロッパー）により推進体制を構築する。

看護学教育研究共同利用拠点 「英人学人国際看護研究利用看護実践研究指導センター」

プロジェクト計画

看護学教育におけるFDマザーマップの開発と 大学間共同活用の促進 年次計画

事業フェーズ	看護学教育におけるFDマザーマップの開発フェーズ			大学間共同活用体制の構築と展開フェーズ	
実施年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
FDマザーマップ	開発準備 看護系大学教員に求められる能力の明確化	開発 FDマザーマップ開発	試用 FDマザーマップを複数大学で試用	洗練 FDマザーマップの活用がイテラティブな最終校を中心としたFDマザーマップ活用に向けた個別別研修を実施	実用化
FDプランニング支援データベース	開発準備 現状のFDプログラム実態調査（国内）	開発準備 各看護系大学のFDに関する人的・物的資源の情報をFDマザーマップに組み込み、データベース化する	開発・試用 全国に公開	活用 基幹校を中心としたFDマザーマップの大学間共同活用システムを整備	実用化 先達年同様システム整備
専門家会議 情報発信	検討・検証 教員の能力を養成とけるためのFDを核としたFD先達地域（米国・英国）の現地調査および専門家会議	検討・検証 各大学が相互に活用可能なFDの企画・実用性の効果検証・国際発信の準備	開発準備 FDマザーマップの試行・FDマザーマップの活用に関する情報を国際発信する	活用 FDマザーマップを活用した看護教員の能力開発に関する情報を国際発信する	実用化 先達年同様システム整備

看護学教育研究共同利用拠点 「英人学人国際看護研究利用看護実践研究指導センター」

プロジェクトの活動

FDマザーマップの開発

- 専門家会議の開催（H23～）
看護学教育・高等教育の専門家による委員会
- 学内での検討会の開催（H23～）
- 看護系大学5校へのヒアリング調査（H24年）
- 全看護系大学を対象としたFD実態調査（H24年）

↓

FDマザーマップを作成

平成25年3月
看護学教育におけるFDマザーマップ活用ガイドver.1（試行版）
平成26年3月
看護学教育におけるFDマザーマップ活用ガイドver.2



看護学教育研究共同利用拠点 「英人学人国際看護研究利用看護実践研究指導センター」

プロジェクトの活動

FDプランニング支援データベースの開発

看護学高等教育におけるFDの取り組みをサポートするためのウェブサイト
(<http://fd.np-portal.com/>)
平成25年10月18日オープン

「看護学教育におけるFDマザーマップ」と「看護系大学のFD実績表」を掲載

平成26年9月1日現在
登録校16校、実績表登録数41件



看護学教育研究共同利用拠点 「英人学人国際看護研究利用看護実践研究指導センター」

プロジェクトの活動

平成23年6月28日(於 千葉大学けやき会館)
看護学教育におけるFDマザーマップの開発キックオフ講演会
—看護系大学の輝く未来を担うFDのあり方を問う—

平成25年6月29日(於 千葉大学けやき会館)
FD講演会「看護系大学における大学院教育のFDを考える」

平成26年8月7日(於 佛教大学)
看護系大学教員のためのFD推進ワークショップ

＜予定＞
平成26年10月20日～22日（於 千葉大学けやき会館）
看護学教育ワークショップ
看護系大学教員の職能開発とキャリア支援
～FD マザーマップの活用を通して～



三郷市教育研究共同利用拠点 「英大生大気院三郷市研究科附属三郷市教育研究センター」

プロジェクトの活動

平成25年8月22日 日本看護研究学会第39回学術集会
「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト」

平成25年9月14日 千葉看護学会第19回学術集会
「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト」

平成25年12月7日 第33回日本看護科学学会学術集会
「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用について」



プロジェクトの活動

平成24年2月6日 横浜市立大学
「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と今後の方向性について」

平成24年10月1日 富山大学
「看護系大学の輝く未来を担うFDのありかたーFDマザーマップの開発を通してー」

平成25年3月16日 岡山県立大学
「看護FDマザーマップの開発と活用への期待」

平成25年6月20日 札幌保健医療大学
「FDマザーマップの活用方法について」

平成25年10月2日 新潟県立看護大学
「FDマザーマップの開発とその活用」

平成25年10月8日 佛教大学
「看護学教育におけるFDマザーマップ活用ガイドVer.1(試行版)」について

平成25年10月17日 広島文化学園大学
「看護学教育におけるFDマザーマップ活用ガイドVer.1(試行版)」について

平成26年3月20日 産業医科大学
「看護系大学におけるFDマザーマップ」の活用について

三郷市教育研究共同利用拠点 「英人学人学院三郷市研究科附属三郷実践研究指導センター」

プロジェクトの活動

○雑誌への投稿
 和住淑子, 他: 看護学教育におけるFDマザーマップの開発(1)
 FDマザーマップ試案作成までの道のり. 看護教育, 54(3), 192-199, 2013
 遠藤和子, 他: 看護学教育におけるFDマザーマップの開発(2)
 FDマザーマップの活用法. 看護教育, 54(4), 298-304, 2013

○ホームページへの掲載
センターホームページ <http://www.n.chiba-u.jp/center/>
FDプランニング支援データベース <http://fd.np-portal.com/>

○ニュースレターの発行

OJANPU(日本看護系大学協議会)へ企画の掲載依頼 <http://www.janpu.or.jp/>

三浦大学教育研究共同利用拠点 「英米学人学院三浦学研究所附属三浦大学教育研究センター」

看護学教育におけるFロマザーマップの開発と
大学間共同活用の促進 年次計画[illegible]

〒565-0871 大阪府豊中市田辺4-1-1 大阪大学大学院経済学研究科附属豊中経済創造研究センター

プロジェクトの課題

FDマザーマップの普及に向けて…
今後、共同活用できる体制をどのように構築すべきか？

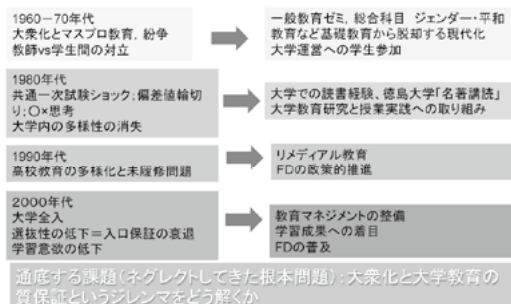
- 基幹校はどう選定すべきか？
- FDディベロッパーをどう養成するのか？
- FDプランニング支援データベース登録大学数をどう増やしていくか？
- 看護系大学のFD実績表のとりまとめと発信をどうするか？

三郷市教育委員会 利用地点 「共栄大学院三郷市研究科附属三郷実践教育センター」

循環的大学教育開発の構築：ローカルリズムと リメディアルモデルを乗り越える東北大学から の提言

東北大学高度教養教育・学生支援機構
羽田貴史

大学教育開発の40年



この40年の成果と課題

成 果

- 大学教育改善が正面から論じられるようになった
- 起爆力としてのセンターが作られて担い手が増えた
- 大学教育研究が拡大した
- 大学教育開発のための資源が投入されるようになった
- 多様なツールが開発され、様々な主張が流布するようになった

この40年の成果と課題

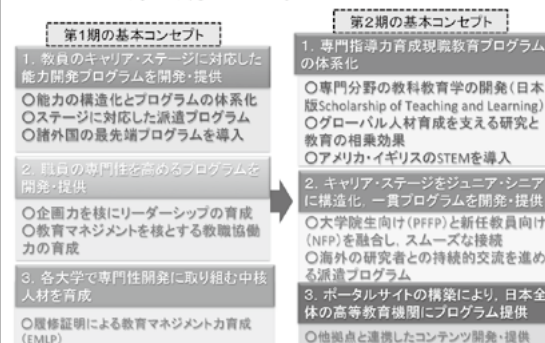
課 題

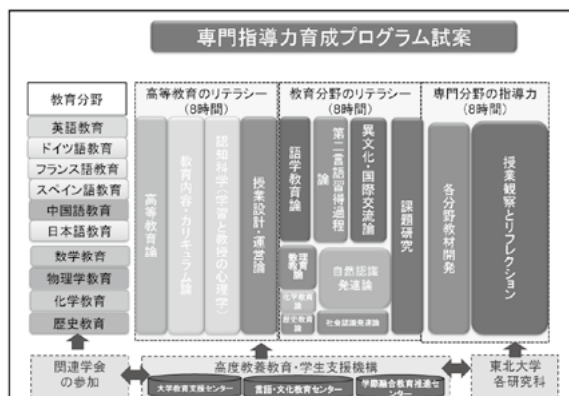
- 教育学・教育社会学者のスピノフが大学教育開発を担い、専門分野との乖離が大きくなった（タコツボ化）
- 大学に対する政策的資源投入の方向が多様で、研究と教育を統合した取り組みにトレード・オフの関係
- 「FD」は教育中心で研究とは無縁とする誤解が広がった
- 効果もわからないのにツールや方法論ばかり流布
- あるべき姿を実現する共通項（質保証）の模索が弱い
- 機関間競争でセンターが大学運営の一部に吸収され、独自の物語を創れなくなった

東北大学CAHE/IEHEのスタンス

- 研究→開発→試行→定着というサイクルを構築
- 普遍的な原理を模索：第1期能力の全体構造とキャリアステージによる発達
- 諸外国の経験を比較・検証：国際連携の重視
- 研究大学の最良の資源を活用
- 研究大学の責任、研究と教育の統合は大学教育の質保証の根源

第2期の基本コンセプト

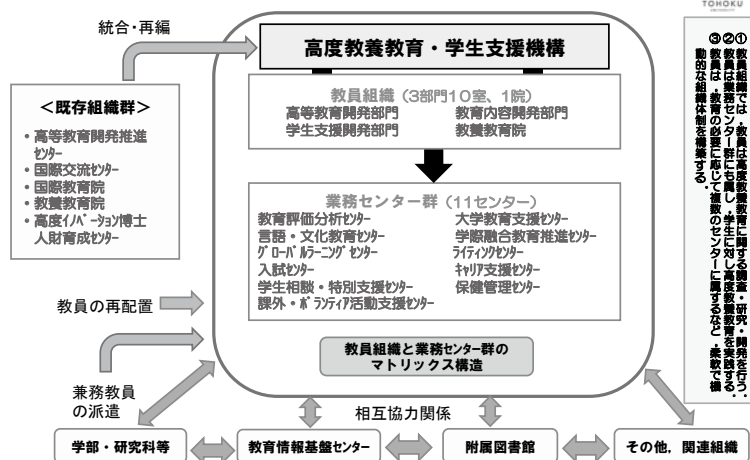




提言…というほどではないが

- 組織論の前に、まず大学教育開発の到達点と課題を
- 大学教育の質を高める方法論のコンセンサス；
 - 過度なローカリズムの主張は機関間の競争の中に埋没するだけ
- 専門家として責任ある事実と検証を…「FDの制度的な形骸化による行き詰まり感」一何の根拠があるのか？
- アカデミックな活動は重視しながらも、大学教育開発活動が学会化することへの危惧、統合性とリアリティ感覚の再構築を目指す
- ネットワークのネットワークが全国的な共通性を実現できるものか？

高度教養教育・学生支援機構の役割および構成



国立大学教養教育実施組織会議 全体協議議題 教養教育の実施組織と仕組みについて